

2013年度 分かち合いの時間の概要

# わたしは神の子です

「すべての人は、男性も女性も、神の形に創造されています。人は皆、天の両親から愛されている霊の息子、娘です。」(「家族——世界への宣言」)





# 分かち合いの時間、ならびに<sup>せいさん</sup>聖餐会での 子供の発表に関する指示

## 初等協会会長会および音楽指導者へ

わたしたちは今年、初等協会の子供たち一人一人が、自分が神の子であると知ることができるように助けるという神聖な祝福と機会にあずかります。子供たちが天の御父の愛を感じる中で、この大切な真理を学ぼう願っています。分かち合いの時間のレッスンのレクチャーに記されている教義を祈りの気持ちで教えるとき、皆さんは子供たちが、自分は神聖な存在であることと、自分の目的と可能性を理解できるように助けることができます。イエス・キリストに対する信仰や自分たちのために天の御父が用意してくださった計画に対する証を増し加えられるよう助けることができます。また、子供たちが自分の将来に対して希望を抱き、天の御父のみもとに戻る道にとどまりたいという望みを強めるよう助けることができます。

準備し、これらの真理を教え、証する中で御霊の助けを願い求めてください。皆さんの献身的な努力によって、多くの家族が祝福を受けるでしょう。わたしたちは皆さんを愛しています。そして、皆さんが貴い子供たちを強め、守るためにささげてくださいている献身的な奉仕に感謝をお伝えします。

中央初等協会会長会

## 分かち合いの時間のための指示

### 福音を教える

本冊子を用いて、毎週分かち合いの時間の中で行う15分のレッスンを教える準備をします。毎週行うレッスンの補助資料として、『リアホナ』など、教会が承認しているそのほかの資料を用いてもよいでしょう。以下の指針は、レッスンを計画し行う際の助けとなるでしょう。

教える生徒を愛する——子供たちの名前を覚え、子供たちの関心、才能、必要に気づくことにより、子供たちに愛を示します。

御霊によって教義を教える——レッスンを準備するとき、導きを祈り求め、教える原則に対する証を強めるよう努力します。これは御霊によって教える助けとなるでしょう。

学ぶように促す——この冊子は教える内容だけでなく、子供たちを教え、熱心に学ぶように彼らを励ます方法を知る助けとなることを目指して作られています。

毎回レッスンの中で以下の3つの事柄を行うときに、いっそう効果的に教義を教えることができます。

1. 教義を明確にする——子供たちが学ぶ教義を明確に紹介します。言葉と視覚教材の両方を使って導入する方法を考えます(例として、2月の第4週と7月の第2週のレッスンを参照)。
2. 理解を促す——歌を歌う、ロールプレイをする、聖文を読むなど、子供たちに学習に参加してもらう様々

な教授法を用いて、子供たちが教義をより深く理解できるようにします。

3. 応用を促す——子供たちが教わった教義を自分の生活に当てはめる機会を与えます。子供たちが教義に関連した思いを表現したり、目標を設定したりする方法を考えます。

本冊子には、1年の一部の週については完結したレッスンを、そしてそのほかの週については完結したレッスンではなく、教えるためのアイデアが掲載されています。これらのアイデアに皆さんのアイデアを付け加えてください。

本冊子のほかのレッスンを読むことにより、新たな方法が見つかることもあります。5週目の日曜日がある場合には、前に教えたレッスンの復習をしてください。皆さんはレッスンのための活動を計画し、準備する際に御霊の導きを得ること

- (1) 教義を明確にし、
- (2) 子供たちが教義を理解し、
- (3) 生活に応用できる方法を計画してください。

ができます。

レッスンの準備は音楽指導者と一緒に行ってください。歌を歌うことは教えている教義を強調するうえで役立ちます。時には、レッスンの一部を教えるのにクラスの教師とその生徒に手伝ってもらってもよいでしょう。

幾つかのレッスンでは、ゲストの話者を招いて初等協会に参加してもらうことが提案されています。そのような人を招待する場合には、ビショップまたは支部会長から事前に承諾を得ます。

**インターネット:** 本冊子に掲載されている情報、視覚資料、資料はLDS.orgの“*Serving in the Church*”で入手できます。

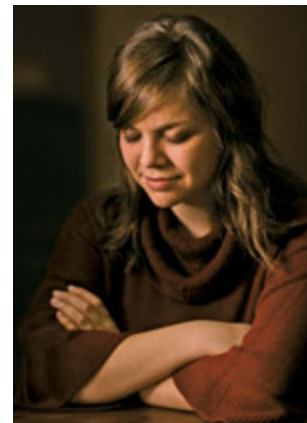
レッスンには、教える力を向上させるうえで役立つ、教えるための提案がついています。また、活動がどのようなものか分かるように絵も含まれています。教える技術を磨くことは大切ですが、子供たちの心に教義を確信させる御霊を招くのは、皆さん自身の霊的な準備と証です。

## 歌の時間

初等協会における音楽は、敬虔な<sup>けいけん</sup>雰囲気を作り、福

音を教え、子供たちが聖霊の導きと歌がもたらす喜びを感じられるように助けます。分かち合いの時間のうち、20分を使って歌を歌い、音楽を教えてください。そうすれば、新しい曲を教え、子供たちが楽しんで歌うのを助けるのに十分な時間が得られます。

本冊子には、今年子供たちが学ぶ新しい曲が1曲載っています(28ページ参照)。また、「初等協会音楽を用いる方法」(26-27ページ参照)という項目や、子供たちに歌を教えるためのそのほかのアイデア(3, 11, 17ページ参照)が掲載されています。



**準備:**分かち合いの時間の準備をする際に、導きを折り求め、御霊の促しを求めてください。御霊により準備し教えるとき、教えている内容が真実であることを御霊が確認してくれるでしょう。(『教師、召し』13参照)

## 聖餐会での発表の指針

聖餐会での子供の発表は、ビショップまたは支部会長の指示の下に、通常、第4四半期に行われます。年度の早い時期に初等協会を担当するビショップリックまたは支部会長の顧問と会い、発表日の予定について話し合います。最終的な計画が出来上がった時点で、その顧問の承認を得ます。

分かち合いの時間の毎月のテーマに基づいて子供たちが発表できるよう計画してください。年間を通じ、発表の中で使う可能性も考えて、子供たち一人一人の話や経験を記録に残しておきます。今年のテーマについて子供たちが学んだことを分かち合えるように準備す

るとき、会衆が子供の教える福音の教義に注目できる方法を考えます。ビショップリックの一人が最後に短話をします。

発表の準備をする際には、以下の指針に留意してください。

- 練習のためにクラスや家族の時間を不必要に奪うことのないようにします。
- 聖餐会での発表で、視覚教材、衣装、映像メディアを用いることは適切ではありません。



## 本冊子で使用されている資料

本冊子では、全体を通じて次のような記号や略称が使われています。

『歌集』——『子供の歌集』

『視覚資料集』——『福音の視覚資料集』

『教師、召し』——『教師、その大いなる召し』

多くのレッスンには絵や写真を活用するための提案が載っています。『福音の視覚資料集』、初等協会教師用ハンドブックに付属している視覚資料、教会機関誌、教会のウェブサイト [images.lds.org](http://images.lds.org) に掲載されている資料などから絵や写真を見つけることができます。

## 2013年度教科課程

### 一般教科課程

託児——『あなたがたの幼い子供たちを見なさい』；ひかり——『初等協会1』；CTR 4-7——『初等協会3』；勇者 8-11——『初等協会5』

### 基礎教科課程

ひかり——『初等協会1』；CTR 4-7——『初等協会3』；勇者 8-11——『初等協会7』

**資料:**『リアホナ』、託児教師用ハンドブック、『福音の視覚資料集』には、塗り絵、物語、活動などの補足教材資料があります。これらの資料を使ってレッスンを補ってください。また、ウェブサイト [friend.lds.org](http://friend.lds.org) の Friend の項で福音の主題に合った資料のリストを探してください。これらの資料を印刷し、子供たちに教える際に使うことができます。

# わたしは神の子です。主はわたしのために 計画を持っておられます

## 歌：「神の子です」

〔歌集〕2-3)

<sup>みたま</sup>「御霊みずから、わたしたちの霊と共に、わたしたちが神の子であることをあかしして下さる。」  
(ローマ8:16)

この冊子に提示されているアイデアに皆さんのアイデアを盛り込んでください。子供たちに(1)教義を明らかにし、(2)子供たちが教義を理解し、(3)生活に応用できる方法を計画してください。次のように自問してください。「これを学ぶために子供たちは何をすればよいだろうか。子供たちが御霊を感じられるようにわたしに何ができるだろうか。」

**年間活動**—— 神があなたを愛しておられることにどのように気づいたかを、簡単に分かち合います。小さな物(綿球、豆、小石など)を透明な瓶や入れ物に入れます。年間を通して、神が自分のことを知っておられて愛しておられることにどんなときに気づいたかを子供たちに話してもらいます。



子供が何か話してくれる度に、自分で瓶に小さな物を入れてもらいます。度々その瓶について触れ、いかに多くの方法で天の御父がわたしたちに愛を示してくださるかについて話します。

### 第1週：神はわたしの天のお父様です。お父様はわたしを知っておられ、愛しておられます。

**教義を明確にする(クイズ)**：次のように子供たちに話します。「今わたしは、ある人のことを考えています。その人はわたしたちを愛しています。わたしたち一人一人を知っています。わたしたちを助けてくれます。遠くに住んでいます。わたしはだれのことを考えているでしょう。」(答え：天の御父) 天の御父とわたしたちとの関係について話し合います。子供たちに次の言葉を一緒に繰り返してもらいます。「神はわたしたちの天のお父様です。お父様はわたしのことを知っておられ、愛しておられます。」

**理解を促す(聖句を読む)**：子供たちを幾つかのグループに分けます。各グループにエノス1:5、モーセ1:6、そしてジョセフ・スミス-歴史1:17を読んでもらい、主がそれぞれの預言者にどのように語られたかについて

話し合ってもらいます。子供たちに次のように尋ねます。「もし天のお父様が皆さんの前に姿を現されたら、皆さんのことを何と呼ばれるでしょう。」神がわたしたち一人一人を名前で御存じであることについて証します。

**応用を促す(歌を歌う)**：子供たちを円にして立たせ、「わたしは神の子」を歌いながら、神の愛を示す物を幾つか回しながら、「わたしは神の子」〔歌集〕2-3)あるいは、「お父様は生きています」〔歌集〕8)を歌ってもらいます。回す物として、聖典、<sup>せいさん</sup>聖餐の写真、果物、家族の写真などが考えられます。ときどき歌を止めて、手に何かを持っている子供たちに、神が自分たちを愛しておられることが分かる方法の一つ話してもらいます。時間が許すかぎり繰り返して行きます。

### 第2週と第3週：天のお父様の計画は、幸福の計画です。



**教義を明確にする**：「天のお父様の計画は、幸福の計画です」と1枚の紙に書きます。その紙を入れ物に入れて、贈り物に見えるように包みます。その贈り物を手に持って上に掲げて子供たちに見せ、この中にはみんな

なを幸せにしてくれるものが入っていると伝えます。それから包みを開け、一人の子供にその紙に書かれた文をみんなに聞こえるように読んでもらいます。わたした

ちが幸せになり、天の御父と再び住めるように、御父は一つの計画を持っておられることを説明します。

**理解を促す(歌を歌う、質問に答える)**：以下の質問を書いた紙片を各クラスに渡します。

わたしたちの命にはどのような意味がありますか。

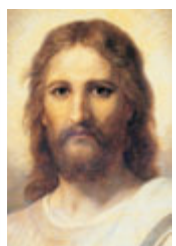
天でわたしは何を選びましたか。わたしたちはこの世でどのように生きるべきでしょうか。

わたしたちは何のために生きていますか。

「主の計画にしたがう」〔歌集〕86-87)の歌詞「この命は……計画の祝福」までを歌い、最初の質問について話し合います。歌の続き「人はだれでも……主の道を進もう」を歌い、2番目の質問について話し

**活動を合わせる**：初等協会の規模に合わせて活動を行います。初等協会全体で人数が多い場合は、グループに分けて聖文を読んだ方が、子供たち一人一人に参加する機会を多く与えることができます。少人数の場合は、グループに分ける必要はないでしょう。

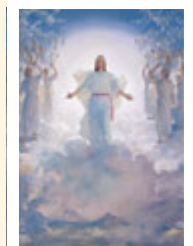
#### 前世



#### 現世



#### 来世



合います。「愛、御言葉、……天国でも」を歌い、3番目の質問について話し合います

**理解を促す(文章を完成させる)**: 前世、現世、来世を表す絵を部屋の中のそれぞれ離れた場所にはります。1枚の紙にニコニコマーク(スマイルマーク)を描きます。そのニコニコマークを上に掲げるときは、「幸せ」と言うように子供たちに伝えます。前世の絵の近くに立ち、天上の大会議について説明します。説明の際に「幸せ」という表現が出てくるときは、ニコニコマークを上に掲げて、子供たちに「幸せ」と言ってもらいます。例:「天のお父様はわたしたちに幸せになってほしいと思われました。そこでわたしたちを地上に送り、体が得られるようにする計画について話されました。もし神の戒めを守るなら幸せになれると教えてくださいました。わたしたちが幸せになるためには、救い主が必要であることを天のお父様は御存じでした。天の

お父様の計画を聞いたとき、わたしたちはとても幸せだったので、喜びのあまり叫んだほどでした。」「みんなは家族のもとにきました。みんなが生まれたとき、家族はとても幸せでした。」「正しい選びをするとき、わたしたちは幸せです。」「わたしたちは日の栄えの王国で家族や天のお父様やイエス・キリストと永遠と一緒になれるとき、幸せになるでしょう。」子供たちの年齢や理解度に合わせて、計画をさらに具体的に説明してもよいでしょう。

**応用を促す(絵を描く)**: 子供たち一人一人に、ニコニコマークと「天のお父様の計画は幸福の計画です」と書いた紙を渡します。天の御父の計画の中で、わたしたちを幸せにしてくれる物の絵を描いてもらいます。天の御父の計画はわたしたちの永遠の幸福のためであることを証します。

**愛を示す**: 「生徒に愛を示すと、生徒は御霊を受け入れやすくなる。」(『教師、召し』31) 子供たちのために祈り、彼らの興味や問題を知り、彼らを名前で呼び、彼らの言葉によく耳を傾けるなら、彼らに対する愛を増すことができます。

#### 第4週: わたしには選択の自由があり、自分の選びには責任があります。

**教義を明確にする**: 2枚の紙を用意し、1枚には「わたしには選択の自由があります」と書き、もう1枚には「自分が選んだことには責任があります」と書きます。子供たちを二つのグループに分けます。二人の子供に部屋の前の方に来てくれるように頼みます。一人に1枚目の紙を掲げてもらい、一つのグループを立てさせて「わたしには選択の自由があります」と言ってもらいます。もう一人の子供に2番目の紙を掲げてもらい、別のグループの子供たちに立って「自分が選んだことには責任があります」と言ってもらいます。それを何度か繰り返し、それぞれのグループにそれぞれの言葉を書いてもらいます。

**理解を促す(結果について話し合う)**: 食べないことや、熱いストーブに触ることや、教会に行くことや、ほかの人に親切にするという選びをするとき、どんな結果になるかを子供たちに尋ねます。天の御父はわたしたちを愛しておられるので、良い選びをして、それによって祝福を得てほしいと望んでおられます。

**応用を促す(ゲームをする)**: 良い選びや悪い選びを1枚の紙に一つずつ書き、それを容器に入れます。子供たちを「選び」の列と「結果」の列の2列に並べさせます。全員で「選べ、正義を」(『賛美歌』152)を歌

うのに合わせて、各列の先頭の子供に部屋の前の方に来てもらいます。「選び」の列に並んでいる子供に容器から紙を1枚選んでもらい、そこに書かれた選びを読み上げてもらいます。「結果」の列に並んでいる子供に、その選びをするときに考えられる結果を挙げてもらいます。それが良い選びのときは、ほかの子供たち全員に親指を挙げて(または、両手で○を作って)もらい、それが悪い選びのときは、親指を下げて(または、手を交差して×を作って)もらいます。時間があるかぎり、繰り返します。

すべての子供たちを活動に積極的に参加させることで、彼らの注意を引き、学習に参加する機会を与えることができます。



#### 音楽指導者へ

子供たちに「わたしは神の子」を一緒に歌ってくれるように頼みます(『歌集』2-3)。この歌の歌詞で、何かしてほしいことを表す言葉を見つけるように伝えます。子供たちの答えをホワイトボードに書きます(助ける、導く)。それぞれの言葉について質問します。例:

「導いてくれるのはだれですか」「だれかに助けてほしいと思うのはなぜですか」など。両親や教師、指導者、預言者、聖文、聖霊を与えられ、天の御父のみもとに帰る道を見いだせるように助けが得られる祝福について証します。

# 地球は天のお父様の子供たちのために 創造されました

歌：「天のお父様の愛」  
〔歌集〕16-17)

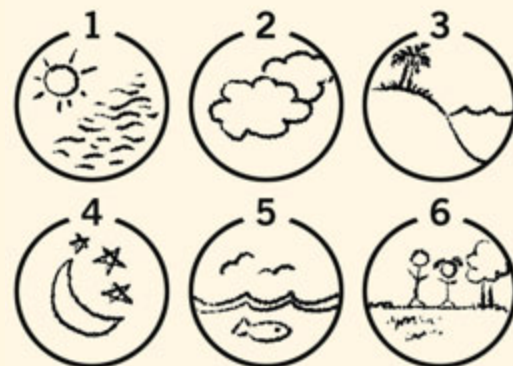
「これらの者が住む地を造ろう。そして、わたしたちはこれによって彼らを試し、何であろうと、主なる彼らの神が命じられるすべてのことを彼らがなすかどうかを見よう。」(アブラハム 3:24-25)

この冊子に提示されているアイデアに皆さんのアイデアを盛り込んでください。子供たちに(1)教義を明らかにし、(2)子供たちが教義を理解し、(3)生活に応用できる方法を計画してください。次のように自問してください。「これを学ぶために子供たちは何をすればよいだろうか。子供たちが御霊を感じられるようにわたしに何ができるだろうか。」

## 第1週：天のお父様の指示を受けて、イエス・キリストが地球を創造されました。

**教義を明確にする(絵や写真を見る)：**地球の絵や写真を見せ、どなたが地球を創造されたかを子供たちに尋ねます。天の御父の指示を受けて、イエス・キリストが地球を創造されたことを説明します。その後、イエス・キリストの絵を見せ、子供たちに「イエス・キリストが地球を創造されました」と言ってもらいます。

**理解を促す(絵を描く)：**天の御父の幸福の計画の一部として地球が創造され、わたしたちは成長し、学べるように肉体を受けることになったと子供たちに話します。ホワイトボード(または黒板)に丸を6個描き、それぞれに1から6までの番号を振ります。子供たちを6つのグループに分け、各グループに創造の6日間について描写されている次の聖句の一つを読むように伝えます——創世1:1-5(第1日目)；創世1:6-8(第2日目)；創世1:9-13(第3日目)；創世1:14-19(第4日目)；創世1:20-23(第5日目)；創世1:24-31(第6日目)。各グループに順番に部屋の



前の方に出てきてもらい、読んだ中からその日にどんなことが起こったかをほかの子供たちに話してもらいます。そしてその番号がついた丸の中にその日にあったことを表す絵を描いてもらいます。創世2:1-3と一緒に読みます。創造の第1日目から第6日目まで何があったか、子供たちとともにもう一度確認してください。

**御霊を求めると：**分かち合いの時間の準備をする際、導きを求めて祈り、御霊が働きかけてくださるようお願いしてください。御霊とともに準備し、教えるとき、御霊はあなたが教えることが真実であることを確認してください。

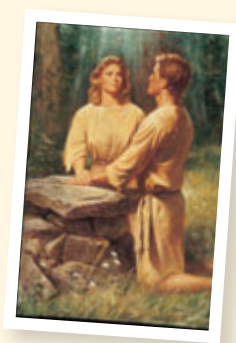
## 第2週：墮落は神の計画の一部でした。

**教義を明確にする(絵を見る)：**アダムとエバの絵を見せます。子供たちにアダムとエバは最初に地上に来て肉体を受けた人たちで、「エデンの園」と呼ばれる場所に置かれたことを話します。二人が園を出たので、わたしたちが地上に来られるようになったこと、彼らが園を出たことは「墮落」と呼ばれることを説明します。「墮落は神の計画の一部でした」とホワイトボード(または黒板)に書き、子供たちに一緒に言ってもらいます。

**理解を促す(教義について話し合う)：**ホワイトボード(または黒板)に二つの円を描き、一つには前世と書き、もう一つには地上と書きます。アダムとエバがエデンの園にいたとき、わたしたちは霊の状態で前世にいたことを説明します。何人かの子供たちの写真を見せ、ホワイトボード(または黒板)の「前世」の円の中にテープではります。アダムとエバがエデンの園を

去った後、わたしたちは地上に来ることができるようになりました。一人の子供に、子供たちの写真を「地上」の円に移してもらいます。墮落が良いことだと思う人は、両手で丸を作るよう伝え、一人の子供になぜそう思うかを説明してもらいます。

**応用を促す(神経衰弱ゲーム)：**現世で経験する祝福を表す、関連する言葉や対になる言葉を紙に書き、カードを作ります(例：手・足、お父さん・お母さん、目・見る、耳・聞く、口・食べる、本・読む、良い選び・悪い選び、うれしい・悲しい、健康・病氣、笑う・泣く、歩く・走る)。カードを裏返しにして床やテーブルの上に置きます。子供たちに順番に2枚のカードを裏返しにしてもらい、ペアを探してもらいます。ペアのカードを見つけたら、なぜそれが祝福かを話し合ってもらいます。



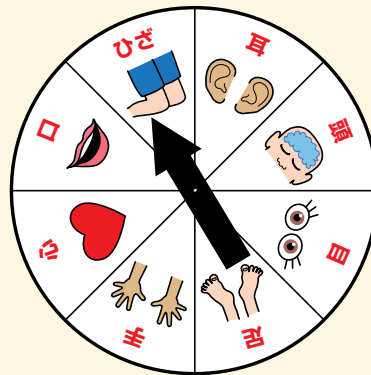
### 第3週：わたしは体をもらい、試されるために地上に送られました。



子供たちは最も良い視覚教材になります。

**教義を明確にする (視覚教材を見る) :** ホワイトボード (または黒板) に「わたしは\_\_\_\_\_をもらい、試されるために地上に送られました」と書きます。一人の子供に前に出てきてもらい、ホワイトボード (または黒板)、あるいは大きな紙に自分の体の絵を描いてもらいます。子供たちにその絵は何か尋ねます (答え: 体)。空欄に答えを書き込み、子供たち全員と一緒にホワイトボード (または黒板) の文章を読んでもらいます。

**理解と応用を促す (体を使った活動に参加する) :** 円形の紙を中心に回るようにして、体の各部分の絵を描き入れます (下図を参照)。体を使ってできることについて話し合い、子供たちと一緒にその動作をします (例: 指を回す、足踏みをする、回るなど)。地上に来た理由の一つは、わたしたちが体を使って天の御父の教えに従うかどうかを試されるためです。子供たちに順番に円を回してもらい、矢印が指した体の部分をどのように使って天の御父の戒めを守ることができるかを言ってもらいます。 (もし、円を回すようにできない場合は、あなたの体の各部分を指さして、その部分を使ってどのように天の御父に従うことができるかを子供たちに話してもらいます。) 子供たちに「小さな手」を歌ってもらいます (『歌集』126)。



ルーレット状の円形の紙を入手するには、ここをクリックしてください。

**絵を描く:** 子供たちに自分が描いた絵を家族に見せ、それについて話し合うように励ましてください。そうすることによって、子供たちは学んだことを覚えていることができます。また両親も、子供たちと福音の原則について話し合う機会を持つことができます (『教師、召し』166 - 167)。

### 第4週：戒めを守れば、もう一度天のお父様と住むことができます。

**教義を明確にする (歌を歌う) :** ホワイトボード (または黒板) に「\_\_\_\_\_を守れば、もう一度天のお父様と住むことができます」と書きます。「戒めを守る人を」 (『歌集』68 - 69) をハミングします。子供たちに、何の歌をハミングしているか分かったら立ってもらい、一緒にハミングするように伝えます。「もう一度天のお父様とともに住むためには何をしなければなりませんか」と尋ねます。ホワイトボード (または黒板) の空所に「戒め」と書き入れます。子供たちに一緒に歌を歌ってもらいます。

**理解を促す (戒めについて話し合う) :** 数人の子供たちに、家族が安全であるようにお父さんやお母さんが決めてくれたルールにはどんなものがあるか、話してもらいます。「ルールを守るとどうなりますか」と尋ねます。出た意見をホワイトボード (または黒板) に書きます。両親がルールを決めるとき、それは愛を示していることであると説明します。「神様の戒めを守るとどう

なりますか」と尋ねます。子供たちの意見をホワイトボード (または黒板) に書きます。両親のルールを守ると安全でいられるのと同じように、天の御父の戒めを守るときに安全でいられることを説明します。戒めを守れば、もう一度天の御父とともに住めることを証します。

**応用を促す (聖句を読む) :** 子供たち一人一人に4つに区分した1枚の紙を渡します。それぞれの枠には以下の参照聖句の箇所を書き入れておきます——教義と聖約1:37; 教義と聖約10:5; 教義と聖約59:9 - 10; 教義と聖約119:4。子供たちにクラスごとに分かれて一緒に聖句を読んでもらい、そこに書かれている戒めについて話し合ってもらいます。そして、自分の紙に戒めを表す絵を描いてもらいます。すべて終わったら、戒めを守ることは天の御父と再び住む準備をするためにどのように役立つかを子供たちに話してもらいます。



プリントを入手するには、ここをクリックしてください。

# イエス・キリストはわたしたちの救い主です

「あなたがたはこれらの言葉を聴きなさい。見よ、わたしは世の救い主イエス・キリストである。」  
(教義と聖約 43:34)

歌：「主がそばにいたら」

(この概要の 28 ページ)

この冊子に提示されているアイデアに皆さんのアイデアを盛り込んでください。子供たちに(1)教義を明らかにし、(2)子供たちが教義を理解し、(3)生活に応用できる方法を計画してください。次のように自問してください。「これを学ぶために子供たちは何をすればよいだろうか。子供たちが御霊みたまを感じられるようにわたしに何ができるだろうか。」

第1週：イエス・キリストは福音を教え、わたしたちのために模範を示してくださいました。

**教義を明確にする (歌を歌う)：**一緒に「わたしのするように」を数回歌います(『歌集』146)。それに合わせて数人の子供たちにそれぞれ違った動きをしてもらいます。ほかの人の動きをまねるとき、わたしたちはその模範に倣っていることになると説明します。わたしたちが倣えるように完全な模範を示して下さったのはどなたか尋ねます(答え：イエス・キリスト)。子供たちに全員で声を合わせて「イエス・キリストはわたしたちのために模範を示してくださいました」と言ってもらいます。

**理解を促す (聖文を読む)：**イエス・キリストがバプテスマを受けておられる場面、子供たちとともにおられる場面、祈っておられる場面、教えておられる場面の絵をホワイトボード(または黒板)にはります。以下の聖句から一つを読み、その聖句の中でイエスが教えておられることを説明してもらいます——マルコ 16:15; ヨハネ 13:34-35; 3 ニーファイ 11:37; 3 ニーファイ 18:19。一つの聖句を読んだ後、一つ一つの絵をゆっくり指さしていき、聖句の中でイエスが教えておられることを最もよく示している絵に当たったときに立ち上がるように伝えます。すべての聖句について同じことを繰り返します。

**応用を促す (絵を描く)：**子供たちに1枚ずつ紙を配り、自分がキリストの模範に従っている場面を描いてもらいます。例えば、「バプテスマを受けている場面」、「友達に福音を教えている場面」、「だれかを助けている場面」などが考えられます。2,3人の子供に自分の絵をみんなに見せてもらいます。また、子供たちに描いた絵を家族に見せ、何をしているところかを話すように励まします。



子供たちは学ぶことに積極的であるとき、  
敬虔けいけんになりやすい傾向があります。  
この活動では、子供たちに敬虔に立ったり座ったりさせることで、  
注意を引いておくことができます。

第2週：キリストの贖あがないによって、わたしは悔い改めて、もう一度神とともに住むことができます。

**教義を明確にする (空欄補充)：**初等協会が始まる前に、ホワイトボード(または黒板)に「キリストの \_\_\_\_\_ によって、わたしは \_\_\_\_\_, もう一度 \_\_\_\_\_ とともに住むことができます」と書いておきます。また、別々の紙に「あがない」「悔い改め」「神」

と書き、部屋の3つのいすの座面の裏にテープではっておきます。子供たちにそれらの紙を探してもらい、見つかったら、ホワイトボード(または黒板)の適切な場所にはってもらいます。一緒に文章を読みます。

**良い行動を促す：**子供たちの良い行動をほめる方が、子供たちに悪い行動をやめるように言うよりも良い行動を促すことができます。



**理解を促す (聖句を読み、質問に答える) :** ホワイトボード (または黒板) にゲツセマネと十字架上のキリストの絵をはります。2枚の絵を何枚かの紙で覆い、絵が隠れるようにします。各紙片に、その絵についての質問を考えて書き、質問に対する答えが載っているマタイ 26 - 27 章あるいはルカ 22 - 23 章の中の聖句も記しておきます (例: 「イエスが祈りに行かれた場所の名前は何ですか」 [マタイ 26:36])。子供たちを幾つかのグループに分け、各グループに聖句の一つを選んで読み、答えを見つけてもらいます。質問に対する答えを発表してもらい、その紙片を外していき、絵が現れるようにします。

**理解を促す (実物を使ったレッスンをみる) :** 贖いと悔い改めという言葉の意味について子供たちと話し合い、贖いによってわたしたちがどのように祝福を受けるかを説明します (『真理を守る——福音の参考資料』14 - 20, 63 - 67)。子供たちに贈り物を見せます。一人の子供にそれを持たせ、別の子供に渡してもらいます。二人目の子供には、それを受け取らないようにあらかじめ頼んでおきます。もしも与えられた贈り物を受け取らないなら、その贈り物から得られる祝福を楽しむことはできないことを説明します。贖いという祝福を



聖句を読む活動を年少の子供たち向けにするには、聖句を読んで聞かせ、決まった言葉や表現が聞こえたら立ってもらおうようにするとよいでしょう。

受けるには、どのようなことをしなければならないか、教義と聖約 19:16 を一緒に読み、答えを探してもらいます。

### 第3週: イエスが復活されたので、わたしも復活します。

**教義を明確にする (物語を聞く) :** 託児手引きの122ページからの絵を使い (120ページの指示を参照)、復活の物語を話します (ヨハネ 19:41 - 42; 20:1, 11 - 18 を参照)。イエス・キリストが復活されたとき、肉体と霊が再び一つになったこと、またそれによってすべての人が復活できるようになったことを説明します。子供たちに「イエス・キリストが復活されたので、わたしも復活します」と言ってもらいます。

**理解を促す (気持ちについて話し合う) :** ホワイトボード (または黒板) に、イエスが亡くなられた日、弟子たちが感じたと思われる気持ちを書いておきます (例: 悲しみ、つらさ、苦しみ、絶望)。子供たちにそれとは反対の言葉 (例: 幸せ、喜び、希望、信仰) を考えて挙げてもらい、ホワイトボード (または黒板) に書き

ます。これらは、イエスが復活されたときに弟子たちが感じた気持ちであることを説明します。わたしたちが復活すると知ることによって得られる祝福について話し合います (イザヤ 25:8 アルマ 22:14 参照)。

**応用を促す (気持ちを分かち合う) :** ホワイトボード (または黒板) に「わたしはイエスが復活してくださったことに感謝します。それは……からです」と書きます。ワードの中で愛する人を亡くした経験を持つ会員に初等協会に来てもらい、復活に感謝している理由を簡単に話してもらいます。子供たちに、だれか亡くなった人を知っているか尋ね、目を閉じてその人のことを考えるように伝えます。子供たち数人に立って文章を完成させてもらい、自分にとって復活とはどのような意味があるかを話してもらいます。

**視覚教材:** 子供は視覚教材によく反応します。様々な視覚教材を用いることによって、子供たちの興味や関心を引いておくことができます (『教師、召し』89 - 90 参照)。

### 第4週: イエス・キリストはわたしたちの救い主です。

**教義を明確にする (「救い主」という言葉について話し合う) :** わたしたちの命を救ってくれる人々を象徴する物や写真を見せ (医者、警察官、救急隊員など)、彼らはどのようにわたしたちを救ってくれるか話し合います。イエスの絵を見せ、死と罪によって受ける永遠の結果からわたしたちを救う力を持っておられるのはイエスだけであることを説明します。ホワイトボード (または黒板) に「イエス・キリストはわたしたちの救い主です」と書き、子供たちと一緒に読みます。「救い主」という言葉を強調します。

**理解と応用を促す (聖文の物語を聞く) :** 子供たちに、救い主によって罪から救われた人々についての聖文の物語を話します (例: 青年アルマ [アルマ 36:6 - 24 参照], エノス [エノス 1:1 - 8 参照], ゼーブロム [アルマ 15:3 - 12 参照], ラモーナイの父 [アルマ 22:1 - 26 参照], イエスのもとに連れてこられた男 [ルカ 5:17 - 26 参照])。イエス・キリストの贖いを通して、わたしたちすべての人が罪から救われることができると説明します。イエス・キリストはわたしたちの救い主であられることを証し、<sup>あかし</sup>数人の子供たちにイエスについて証を述べてもらいます。



# イエス・キリストは 末日に教会を回復されました

歌：『子供の歌集』から選曲して歌います。

「わたしは、わたしの僕<sup>しもべ</sup>ジョセフの手によって、わたしの完全な福音を送り出した。」(教義と聖約 35:17)

この冊子に提示されているアイデアに皆さんのアイデアを盛り込んでください。子供たちに(1)教義を明らかにし、(2)子供たちが教義を理解し、(3)生活に応用できる方法を計画<sup>ひか</sup>してください。次のように自問してください。「これを学ぶために子供たちは何をすればよいだろうか。子供たちが御<sup>みたま</sup>霊を感じられるようにわたしに何ができるだろうか。」

**あかし証する**：子供たちに教える際、様々な機会をとらえて福音の真理について短く証してください(『教師、召し』45)。

## 第1週：イエス・キリストと使徒たちの死後、福音の真理は失われました。

**教義を明確にする(話し合う)**：子供たちに、イエス・キリストが地上におられたときにお教えになったことをいくつか挙げてもらいます。キリストが使徒たちを聖任しておられる絵を見せます。キリストが亡くなられた後、復活されたことを説明します。イエスの使徒たち

は福音を教えましたが、多くの人は彼らの教えに耳を傾けようとはしませんでした。やがて使徒たちは亡くなり、大切な福音の真理が教えられることはなくなりました。ホワイトボード(または黒板)に「イエス・キリストと使徒たちの死後、福音の真理は失われました」と書き、子供たちに一緒に読んでもらいます。

**理解を促す(絵を描く)**：ホワイトボード(または黒板)に、背教の間に失われたり、変えられてしまったりした福音の原則を書きます(例：バプテスマ、神権、神殿、生ける預言者、聖餐)。子供たちを小さいグループに分けます。各グループに、福音の原則の一つを書いた紙を渡し、その原則を表す絵を描いてもらいます。各グループの一人の子供に絵をホワイトボード(または黒板)にはってもらいます。キリストが地上におられたとき、これらの重要な福音の真理を教えられたことを説明します。子供たちに目を閉じてもらいます。ホワイトボード(または黒板)の絵を全部集め、隠します。子供たちに目を開けてもらいます。イエス・キリストと使徒たちの死後、福音の真理が失われたことを説明します。ジョセフ・スミスを通して福音が回復されたことを話します。絵を元に戻し、末日聖徒イエス・キリスト教会には、かつて失われたすべての真理があることを証します(絵は第4週でも使うので取っておきます)。



絵を描くことで、子供たちは福音の原則をどのように理解しているかを表現できます。子供たちは自分の描いた絵が視覚教材として使われるのを見るのが好きです。

## 第2週：天のお父様とイエス・キリストはジョセフ・スミスに御<sup>みすがた</sup>姿を現されました。

**教義を明確にする(絵を見る)**：最初の示現の絵を、すべて隠れるように小さな紙片で覆います。子供たちに、1枚ずつ紙片を取り除いてもらいます。何の絵か分かったら、手を挙げて言うように伝えます。すべての紙片を取り除いた後、子供たちにこの絵にはどんな出来事が描かれているか尋ねます。

**理解を促す(聖文を読む)**：子供たちに、ジョセフ・スミスが聖なる森で経験した記録がどこに書かれているかを見せます(ジョセフ・スミス—歴史1:14-19)。その出来事について説明している聖句を自分で読むか、あるいは数人の子供たちに読んでもらいます。幼い子供たちには、木のように腕を伸ばして立っても

らったり、祈るときのように腕を組んでもらったりしてもよいでしょう。もしも天の御父とイエス・キリストが姿を現され、ジョセフ・スミスに話しかけておられるのを見ることができたらどう感じるか、子供たちに尋ねます。この出来事がどれほど大切かについて話し合います。

**応用を促す(証を分かち合う)**：子供たちに「麗き朝よ」(『賛美歌』18)を歌ってもらいます。天の御父とイエス・キリストがジョセフ・スミスに御姿を現されたことを証します。数人の子供たちに最初の示現の証を分かち合ってもらいます。

### 第3週：神権の権能が天の御使いによって回復されました。

**教義を明確にする (歌を歌う)：**子供たちに、大切なことをみんなに発表するときどうするか尋ねます。昔は、大切な発表をするときにはラッパが使われたことを説明します。子供たちに目を閉じて、伴奏者が「神権の回復」(『歌集』60-61)を弾くのを聴きながら、ラッパの音が聞こえると想像してもらいます。子供たちにこの歌を歌ってもらい、この歌はどのような大切なメッセージを伝えているかを見つけてもらいます。数人の子供たちに、この歌の意味を説明してもらいます。

**理解を促す (話者を招いて話を聞く)：**子供たちにアロン神権の回復とメルキゼデク神権の回復の絵を見せます。アロン神権者にアロン神権の回復について短く話してもらいます(教義と聖約13章；ジョセフ・スミス-歴史1:68-72参照)。その後、メルキゼデク神権者からメルキゼデク神権の回復について話してもらいます(教義と聖約27:12-13；ジョセフ・スミス-歴史1:72参照)。2枚の絵をもう一度子供たちに見せ、



絵に描かれている人々の名前を子供たちに言ってもらいます。

**理解を促す (証を分かち合う)：**各クラスに紙を1枚渡し、アロン神権が回復されたことによって今日わたしたちが受けることのできるものを一つ書いてもらいます(例：バプテスマ、聖餐)。また、メルキゼデク神権が回復されたことによって受けることのできるものを一つ書いてもらいます(例：確認の儀式、癒しの祝福)。数人の子供たちに、書いたことを発表してもらいます。神権の回復によって天の御父から与えられている祝福への感謝を述べます。



話者を招くことによって、初等協会がより幅広く、興味深いものとなります。

### 第4週：ジョセフ・スミスはモルモン書を翻訳し、福音の真理を回復しました。

**教義を明確にし、理解を促す (話し合う)：**初等協会が始まる前に、「ジョセフ・スミスはモルモン書を翻訳し、福音の真理を回復しました」と1枚の紙に書き、それを小さな紙片に切ってパズルを作ります。各紙片の裏に、モルモン書の翻訳に関係した人々や物の名前を書きます(例：ジョセフ・スミス、ウリムとトンミム、天使モロナイ、金版、神の力、オリバー・カウドリ)。各クラスにパズルのピース1片を渡し、そこに書かれた人や物がモルモン書とどのように関連しているかを話

し合ってもらいます。クラス毎に全員前に出て来て、話し合った内容を発表してもらい、パズルのピースをホワイトボード(または黒板)にはってもらいます。パズルが完成したら、一緒に文章を読みます。

**理解を促す (話者を招いて話を聞く)：**神権者を招いて、ジョセフ・スミスについて紹介してもらい、彼がどのようにモルモン書を翻訳したかを話してもらいます。第1週に子供たちが描いた絵を数枚渡し、それを使ってジョセフ・スミスを通してどのように福音の原則が回復されたかを分かち合ってもらいます。黒いリボンの蝶ネクタイなど、簡単な衣装を身に付けてもらうこともできるでしょう。衣装を取ってから、ジョセフ・スミスについての証をもらいます。

**応用を促す (アイデアを分かち合う)：**かつて失われていたけれどもジョセフ・スミスを通して回復された福音の真理を挙げられる子供には立ってもらいます。数人の子供たちに、自分の考えを分かち合ってもらいます。回復された福音とモルモン書についての証を分かち合います。

**活動を工夫する：**概要の活動の中には、年長の子供向けのものもあれば、年少の子供向けのものもあります。レッスンを計画するとき、対象の子供たちの年齢や能力を考慮してください。

ジョセフ・スミスは  
モルモン書を翻訳し、  
福音の真理を  
回復しました。

パズルを入手するには、ここをクリックしてください。

# 預言者はわたしたちに回復された福音に従って生活するように教えています

歌：『子供の歌集』から選曲して歌います。

「まことに主なる神はそのしもべである預言者にその隠れた事を示さないでは、何事をもなされない。」(アモス 3:7)

この冊子に提示されているアイデアに皆さんのアイデアを盛り込んでください。子供たちに(1)教義を明らかにし、(2)子供たちが教義を理解し、(3)生活に応用できる方法を計画して(かたよ)ください。次のように自問してください。「これを学ぶために子供たちは何をすればよいだろうか。子供たちが御霊を感じられるようにわたしに何ができるだろうか。」

## 第1週と第2週：生ける預言者はイエス・キリストの指示の下に教会を導いています。

**教義を明確にする(絵を見る, ゲームをする)：**生ける預言者の写真を見せます。数人の子供たちに交代でリーダーになってもらい、飛び跳ねたり、手をたたいたりして、ほかの子供たちも同じ動作してもらいます。預言者の写真を指して、彼は教会の大管長であり、わたしたちは彼が教えるとおりに行うべきであることを説明します。「預言者はだれに従っていますか」と尋ねます。イエス・キリストの写真を見せ、預言者はイエス・キリストの指示の下に働いていることを説明します。

**理解を促す(預言者の教えについて話し合う)：**子供たちに最新の『リアホナ』総大会号を見せます。総大会では、預言者はイエス・キリストがわたしたちに望んでおられることを教えてくれることを説明します。

預言者の説教から幾つかの文章を選び、子供たちに声に出して読んでもらいます。預言者に従うために子供たちができることを一緒に考え、書き出します。

**応用を促す(絵を描く)：**子供たちに1枚ずつ紙を配り、半分に折ってもらいます。片側に預言者の絵を描き、もう一方に預言者に従うためにできることを一つ書いてもらいます。子供たちに立ってその紙を持ちながら「預言者に従おう」を歌ってもらいます(『歌集』68-69)。

第2週のために、子供たちに最近の総大会で預言者が教えた事柄について教えます。活動を計画する際、預言者の教えを明確にし、子供たちがそれを理解して生活の中で応用できるように助ける方法を考えます。

## 第3週：預言者はわたしに(じゅうぶん)什分の一を納めるように教えてくれます。

**教義を明確にする(聖文を読み, 物語を聞く)：**マラキは旧約の預言者であり、人々に什分の一を納めるように教えたことを説明します。一人の子供にマラキ3:10を読んでもらい、ほかの子供たちには、わたしたちが什分の一を納めるとき、主が何を約束してくださっているかをよく聞くように伝えます。「天の窓を開く」とは、什分の一を納めるときにわたしたちが祝福を受けることを表していることを説明します。

**理解を促す(実物を用いたレッスン)：**10人の子供たちに前に出てきてもらいます。それぞれにリンゴ(あるいは別の果物)を一つ渡し、リンゴの木になったつもりで、リンゴを手に持って掲げてもらいます。別の一人の子供にそれらのリンゴを「収穫」して、かごの中に入れてもらいます。什分の一は収入の十分の一であり、普通はお金で支払うけれども、昔は自分が持っている物で納めたこともあったことを説明します。什分の一としてリンゴを幾つビショップに渡したらよいか尋ねます。

**教義を強める：**今月を通して、生ける預言者はイエス・キリストがわたしたちに今知ってほしいと思っておられることを教えてくれることを強調します。預言者に従うとき、イエス・キリストに従っていることを子供たちが理解できるよう助けます。



**応用を促す (什分の一について話し合う) :** 什分の一を納めるための用紙を見せます。什分の一の納め方について話し合います。家族が什分の一を納めること

どのような祝福を受けてきたか、子供たちに話してもらいます。什分の一を納めるようにという預言者の教えに従うことで得られる祝福について証をします。



**第4週：預言者はわたしに知恵の言葉に従って生活するように教えます。**

**教義を明確にする (聖文を読む) :** 子供たちに、両親から危険を警告してもらったことについて話してもらいます。なぜ両親は危険を警告してくれるのか尋ねます。天の御父はわたしたちを愛しておられるので、預言者を通して危険を警告して下さることを説明します。一人の子供に教義と聖約 89:4 を読んでもらい、ほかの子供たちにここに書かれている警告は何と呼ばれているか、聞き取ってもらいます。預言者ジョセフ・スミスはこの「知恵の言葉」の警告を神から示現として受けたことを説明します。

の下に参照聖句がはってあるか確かめてみるように伝え、聖句を見つけた人にはその聖句を声に出して読んでもらいます。それぞれの聖句の意味について話し合います。「強い飲み物」はアルコール、「熱い飲み物」はコーヒーとお茶であることを伝えます。

**理解を促す (聖文を読む) :** 初等協会が始まる前に、以下の参照聖句を紙に一つずつ書き、いすの座面の裏に1枚ずつテープではっておきます——教義と聖約 89:7; 教義と聖約 89:8; 教義と聖約 89:9; 教義と聖約 89:10; 教義と聖約 89:12; 教義と聖約 89:16。天の御父はわたしたちに肉体を与えてくださり、それを大切にしてほしいと願っておられること、また、肉体にとって役立つものは何か、肉体に害を与えるものは何かをわたしたちが知ることができるように知恵の言葉を与えてくださったことを説明します。いすの座面

**応用を促す (ゲームをする) :** 袋の中に、体に良い、あるいは体に悪い、様々な食べ物や飲み物、またそのほかの物の写真や絵を入れておきます。一人の子供に袋から1枚取ってみんなに見せてもらいます。良い物なら口を開けるように、悪い物なら手で口を覆うように伝えます。教義と聖約 89:18-21 を読み、わたしたちが預言者に従って知恵の言葉を守って生活するときに得られる祝福について話し合います。



子供たちは敬虔な態度を保ちながらも、楽しい活動や動きを通して学ぶことができます。

**音楽指導者へ**

今月の歌を「感謝を神に捧げん」(『賛美歌』11)に替えてもよいでしょう。以下に、歌を教えるときに役立つアイデアが挙げられています。この例では歌詞を書いた紙を使っていますが、年少の子供たちに教える場合は絵を使ってもよいでしょう。

様々な色の紙片に歌詞を文節ごとに区切って書きます(あるいは、違う色のペンで書いてもよいでしょう)。歌詞の1節を二つに分けます。以下の方法のうち一つを使って歌を教えます。

1. 歌詞を書いた紙片を部屋のあちこちに置きます。みんなで歌を何度も歌う間、数人の子供たちに歌詞を拾って正しい順番に並び替えてもらいます。1節ずつ歌い、その内容について話し合い、それから1曲全部を歌います。
2. 歌詞を書いた紙片を歌のとおりホワイトボード(または黒板)に並べます。子供たちと歌を歌います。一人の子供に紙片を1枚取ってもらい、もう一度歌を歌います。紙片がすべてなくなるまで歌い続けます。
3. 節の最初の半分を正しい順にホワイトボード(または黒板)に並べ、残りの半分かをばらばらに並

感謝を神に	ささげん
預言者の	導き
末日に	福音を
光と	たまいぬ
豊かな	み恵みに
われらは	感謝せん
喜び	仕えつつ
戒め	守らん

言葉のカードを入手するには、ここをクリックしてください。

- べます。あなたが節の最初の部分を歌い、子供たちに残りの半分を見つけてもらいます。その節の意味を説明します。
4. 子供たちを二つのグループに分けます。一つのグループに節の最初の半分を歌ってもらい、もう一つのグループに残り半分を歌ってもらいます。交代しながら繰り返し歌います。

# わたしはバプテスマと確認を受けることによって 天のお父様の計画に従います

歌：「バプテスマを受ける時」  
（『聖徒の道』1997年9月号、  
こどものページ、5）

「わたしのもとに来て、わたしの名によってバプテスマを受けなさい。そうすれば、あなたがたは罪の赦しを受け、聖霊に満たされ……るのであろう。」（3 ニューファイ 30：2）

この冊子に提示されているアイデアに皆さんのアイデアを盛り込んでください。子供たちに（1）教義を明らかにし、（2）子供たちが教義を理解し、（3）生活に応用できる方法を計画して（または）次のように自問してください。「これを学ぶために子供たちは何をすればよいだろうか。子供たちが御霊を感じられるようにわたしに何ができるだろうか。」

**愛を示す：** 教えている子供たちに愛を示すために、彼らの答えがたとえ自分が求めていた答えと違って、心からの賞賛の言葉を伝えるようにします。

## 第1週：わたしはバプテスマと確認を受けることによって天のお父様の計画に従います。

初等協会が始まる前に、違う色の紙を切って大きな足跡を2枚作っておきます。1枚には「バプテスマと確認を受け」と書き、もう1枚には「バプテスマの聖約を守る」と書きます。同じ2色を使って、もう少し小さな足跡を数枚ずつ作ります。一つ目の色の足跡に、「8歳」「悔い改め」「ビショップとの面接」「水に沈める」「神権の権能」「聖約」「白い服」「聖霊」と書きます。二つ目の色の足跡に、「わたしの福音の標準」の中の標準の一つずつ書きます。小さい方の足跡をすべて部屋のあちこちに置きます。

**教義を明確にする：** ホワイトボード（または黒板）に「わたしは……ことによって、イエス・キリストに従います」と書きます。大きな足跡を1枚ずつホワイトボード（または黒板）にはり、そこに書かれていることを一緒に読みます。天の御父の計画の中で進むべき段階があることを説明します。必要であれば、バプテスマの聖約とは何かを子供たちが理解できるように助けます。

**理解と応用を促す（絵合わせゲーム）：** 一人の子供に一つ目の色の足跡の一つを見つけてもらいます。そこに書かれた言葉や節を読んでもらい、内容に合わせて、ホワイトボード（または黒板）の大きな足跡のいずれかの下にはってもらいます。子供たちに、このことはバプテスマと確認とどのような関係があるかを尋ね

ます。一つ目の色の足跡すべてについて同様に行います。

一人の子供に、二つ目の色の足跡の一つ見つけてもらいます。そこに書かれた言葉や節を読んでもらい、内容に合わせて、ホワイトボード（または黒板）の大きな足跡のいずれかの下にはってもらいます。足跡に書



足跡の形を入手するには、ここをクリックしてください。

かれた福音の標準に従って生活することは、子供たちがバプテスマの聖約を守るうえでどのように助けになるか、話し合います。ほかの足跡についても同様に行います。

## 第2週：ふさわしい生活をするなら、聖霊はわたしが正しいことを選べるように助けてくださいます。

**教義を明確にする（歌を歌う）：** バプテスマを受けた後、どんな賜物を与えられるか子供たちに尋ねます。「せいれい」の2節目の歌詞を歌います（『歌集』56）。歌う前に、子供たちに次の質問の答えを探しながら歌うように伝えておきます——聖霊はわたしたちが何をすることを助けてくださいますか。聖霊は細く小さな声であり、わたしたちが正しいことを選ぶのを助けてくださることを、子供たちが理解できるようにします。

**理解を促す（実物を使ったレッスン）：** 頭に浮かぶ考えや、心に感じる思いに注意を払うことによって、聖霊の促しを聞き分けられるようにならなければならないことを説明します（教義と聖約8：2参照）。一人の

子供にガラス瓶に硬貨を入れて振ってもらいます。子供たちに、いかにはっきりと音が聞こえるか確認してもらいます。子供たちに泥、米、砂、あるいは綿球をスプーンで一杯入れてもらう度に瓶を振ってもらい、音がどのように変化したかを話してもらいます。硬貨の音が聞こえなくなるまで、スプーンで入れ続けます。これと同じように、わたしたちの生活も心をそらすものや罪でいっぱいになると、聖霊を聞き分けるのが難しくなってしまいます。瓶を空にして、もう一度瓶を振って硬貨の音をはっきりと聞こえることを示します。戒めを守り、罪を悔い改めることによって聖霊を聞き分けることができることを証します。



教義を目に見える教材に関連付けて教えることで、子供たちは教えられたレッスンを覚えやすくなります。

**応用を促す (アイデアを分かち合う) :** 子供たちを幾つかのグループに分け、各クラスに小さな物 (ボールやおもちゃなど) を渡し、あなたが「聖霊」に関連した歌を歌ったり、言葉を言ったりする間、輪になって小

さな物を隣の人に回させます。ときどき歌や言葉を止めて、そのとき物を持っている人に、聖霊のささやきをもっとはっきり感じるためにできることを一つ言ってもらいます。最後に「せいれい」を一緒に歌います。

### 第3週: 聖餐を取るとき、わたしはバプテスマの聖約を新たにします。

**教義を明確にする (絵や写真を見る) :** バプテスマと聖餐の絵や写真を見せ、この2枚はどのように関係

る、「いつも御子の御霊がともにある」。この説の意味について話し合います。



**応用を促す (動作をする) :** 聖餐の祈りの中で語られる聖約の一つ一つを思い出すために、どのような動作をすることができるか、考えてもらいます。例: 胸に手を当てる (御子の御名を受ける)、額を指さす (いつも御子を覚える)、両手を合わせてから本のように開く (御子の戒めを守る)、両腕で自分を抱きしめる (いつも御子の御霊を受けられる)。この4つの約束を、動作を付けながら何回か繰り返して言います。聖餐の祈りを聞くとき、心の中でこの動作を思い出すよう子供たちを励まします。

しているか尋ねます。子供たちに、わたしたちはバプテスマを受けるときに天の御父と聖約を交わすことを思い起こさせ、聖餐を受けるときにバプテスマの聖約を新たにすることを説明します。

**理解を促す (話を聞き、話し合う) :** 聖餐の祈りに関する以下の言葉をあなたが読む間、子供たちに、だれがその約束をするのか指をさして示してもらいます。自分がするときは、自分を指し、天の御父がされるときは天を指します (教義と聖約 20:77 参照) — 「御子の御名を受け」、「御子を常に覚え」、「その戒めを守



### 第4週: 悔い改めるとき、わたしは赦しを受けることができます。

**教義を明確にする (言葉の並び替え) :** 子供たちに「悔い改める」と「赦す」という言葉の意味を説明してもらいます。各クラスに封筒を1枚渡します。その中には、以下の言葉を別々に紙片に書いて入れておきます。「悔い改める」「とき」、「わたしは」「赦しを」「受ける」「ことが」「できます。」各クラスに、言葉を正しい順に並べてもらいます。全クラスが並べ終わったら、全員で文章を読みます。

表す)。子供たちに、物語を聞きながら、話さずに動作だけまねしてもらいます。放蕩息子の絵を見せ、物語に登場する父親は天の御父とどのように似ているか尋ねます。天の御父はこの物語の父親とまったく同じように、わたしたちを愛しておられ、御自分のもとに帰ってきてほしいと望んでおられること、また悔い改めるならわたしたちがなしたすべての過ちを赦してくださることを説明します。

**理解を促す (聖文の物語を演じる) :** 放蕩息子の物語 (ルカ 15:11-24) を自分の言葉で、できるだけたくさん動作を交えながら話します (例: 2本の指を見せて二人の息子を表す、おなかをなでて、飢えたことを

**応用を促す (聖文を読む) :** 一人の子供にモーサヤ 26:30 を読んでもらいます。子供たちに、人は何回赦してもらえるかについてよく聞くように言います。次に間違いをしたときにどうしたらよいか、静かに考えてもらいます。

**すべての子供たちを参加させる:** 子供たちは動いたり、活動をしたりすることで学び、覚えます。物語を話すとき、子供たちにも簡単な動作をさせます。

# 家族は天のお父様の 計画の一部です

歌：「家族は永遠に」

(『歌集』98)

「家族は神によって定められたものです。」(『家族——世界への宣言』第7段落)

この冊子に提示されているアイデアに皆さんのアイデアを盛り込んでください。子供たちに(1)教義を明らかにし、(2)子供たちが教義を理解し、(3)生活に応用できる方法を計画してください。次のように自問してください。「これを学ぶために子供たちは何をすればよいだろうか。子供たちが御霊みたまを感じられるようにわたしに何ができるだろうか。」

## 第1週：天のお父様はわたしが家族のもとに来るように計画してくださいました。

**教義を明確にする**：子供たちに「家族——世界への宣言」を見せ、そこには、天のお父様の計画はその子供が地上に家族の一員として送られるということを教えていると説明します。

**理解を促す(絵を見る)**：子供たちをいくつかのグループに分け、各グループに家族の写真を1枚渡します(例：「子供たちに教えるアダムとエバ」〔『視覚資料集』5〕、「ヤイロの娘をよみがえらせるイエス」〔『視覚資料集』41〕、「約束の地に着いたリーハイの家族」〔『視覚資料集』71〕、「ともに祈る家族」〔『視覚資料集』112〕)。各グループに、絵に描かれている家族を見つけてもらいます。各グループに、自分たちの絵をみんなに見せ、お父さん、お母さん、子供たちを指さしながら説明してもらいます。子供たちに、自分の家は何人家族か、指で人数を示してもらいます。子供たちに、家族は天の御父の計画の一部であることを伝えます。

**応用を促す**：男の子たちに立ってもらいます。一人一人が将来義にかなった家族の父親になれることを説明します。男の子数人に、良いお父さんになるために



絵やそのほかの視覚資料を用いて教えると  
子供たちはよりよく学び、長く覚えておくことができます  
(『教師、召し』176, 181 - 182 参照)。

自分がしようと思うことを話してもらいます。子供たち全員に、今の自分の家族が幸せになるために自分ができることを発表してもらいます。

**活動を工夫する**：第1週  
の二つ目の活動は年少の子  
供たちに適しています。年  
長の子供たちには、聖文に  
登場するこれらの家族につ  
いて教える方法を計画する  
とよいでしょう。

実物を使ったレッスンは  
生徒の興味を引き、  
注意を向けさせ、福音の原則を  
導入しようとするのに  
役立ちます(『教師、召し』参照)。

## 第2週：家族の祈り、家族の聖文研究、家庭の夕べはわたしの家族を強めます。

**教義を明確にし、理解を促す(実物を使ったレッスンを見る)**：一人の子供に束ねた棒を持ってもらいます。棒は家族の一人一人を表していることを説明します。小さな紙片1枚ずつに「家族の祈り」「家族の聖



文研究」「家庭の夕べ」と書きます。子供たちにこれらのことをすることで、どのように家族を強め、一致させる助けになるかを尋ねます。子供たちに、紙片を棒の束に巻きつけてもらいます。これらのことを行くと、家庭や生活に御霊を招き入れることができ、家族全員が天の御父やイエス・キリストに近づくことができ、それによって家族がさらに強められることを説明します。

**応用を促す(絵を描く)**：子供たちそれぞれに紙を数枚渡し、家族と一緒に何かをして家族が強められたときの絵を描いてもらいます。絵を持ち帰り、家庭で家族に見せて分かち合うように勧めます。



### 第3週：神権によってわたしの家族は祝福され、強められます。

**教義を明確にする (クイズ)：**これから、家族を祝福し強めてくれるものについてヒントを言うので、答えが分かったら手を挙げるように話します。神権についてのヒントを与えます。例：「これを持っているお父さんは家族に祝福を与えることができます。」「男の子は12歳になると、これを受けられます。」「子供たちが正しく答えられたら、全員で「神権によってわたしの家族は祝福され、強められます」と言います。



うに励まします。

**理解を促す (神権について話し合う)：**子供たちに、神権者ができることを幾つか挙げてもらいます(例：バプテスマを施す、聖霊の賜物<sup>たまもの</sup>を授ける、病人を祝福する、聖餐<sup>せいさん</sup>を配る)。これらの儀式や祝福の写真を見せながら話し合い、家族をどのように祝福し強めてくれるかを理解できるよう助けます。神殿の写真を見せ、神権の最も大きな祝福は、神殿に行き、家族として永遠に結び固められることであると説明します。

**応用を促す (アイデアを分かち合う)：**数人の子供たちに立ってもらい、神権によって家族が祝福され、強められた経験の一つか二つ分かち合ってもらいます。家庭でも家族にそれを分かち合うように励まします。



### 第4週：天のお父様はわたしに、神殿で結婚し、永遠の家族を持つように望んでおられます。

**教義を明確にする (絵を見る)：**結婚衣装を身に着けて神殿の前に立つカップルの写真を見せます。天の御父はなぜわたしたちに神殿で結婚してほしいと望んでおられるのか子供たちに尋ねます。神殿で結婚するとき、家族が永遠になれることを説明します。

**理解を促す (証を聞く)：**数人の教師に、可能な場合は夫婦で、神殿や神殿結婚によって受けてきた祝福を分かち合ってもらいます。子供たちに、話の中でどのような祝福について語っているか、よく聞くように伝えます。祝福をホワイトボード(または黒板)に書きます。

**応用を促す：**数人の子供たちに立ってもらい、神殿で結婚したい理由とその祝福を受けるために今どのように備えることができるかを話してもらいます。



**ヒント：**永遠の家族について教えるとき、家庭に両親がいない子供や、両親やきょうだいの中にあまり教会に活発でない人や教会員でない人がいる子供に配慮します。ふさわしく生活して備え、いつか自分自身の永遠の家族を持てるように努力するよう、すべての子供たちを励まします。

# 天のお父様はわたしの祈りを聞き、 こたえてくださいます

## 歌：「子供の祈り」

〔歌集〕6-7)

**敬意**：子供たちは動作や活動を通して学びます。動作を伴う活動を敬虔に終わらせ、次の活動に備えさせる方法を計画します。敬虔さについての歌を歌ってもよいでしょう。

子供たち自身、  
効果的な視覚教材になることができます。  
この活動では、子供たちに  
正しい祈り方を実際に  
やってみせてもらいます。

「あなたは謙遜<sup>けんそん</sup>でありなさい。そうすれば、主なるあなたの神は手を引いてあなたを導き、あなたの祈りに答えを与えるであろう。」(教義と聖約 112:10)

この冊子に提示されているアイデアに皆さんのアイデアを盛り込んでください。子供たちに(1)教義を明らかにし、(2)子供たちが教義を理解し、(3)生活に応用できる方法を計画<sup>けいけい</sup>してください。次のように自問してください。「これを学ぶために子供たちは何をすればよいだろうか。子供たちが御霊<sup>みたま</sup>を感じられるようにわたしに何ができるだろうか。」

### 第1週：聖文はわたしに祈り方を教えてくれます。



**教義を明確にする**：聖典を掲げ、聖典の中でどんなことが学べるかを子供たちに言ってもらいます。聖典から学べることの一つは、祈り方であると伝えます。

**理解と応用を促す(聖典の物語を聞く)**：アルマとアミュレクがゾーラム人に教えるを述べた物語について話します(アルマ 31章, 33-34章参照)子供たちに正しい祈り方を動作で示してもらいます。子供たちにこの物語から祈りについて学べることを言ってもらいます。子供たちの答えをホワイトボード(または黒板)に書きます。子供たちにこの物語で学んだことを自分たちにどのように生かせるかを話してもらいます。

### 第2週：天のお父様はわたしたちにいつでも、どこでも、一日に何度でも祈ってほしいと願っておられます。

**教義を明確にし、理解を促す(聖文を読む)**：子供たちに、いつでもどこでも天の御父に祈ることができることと伝えます。アルマ 33:3を開いてもらい、一緒に読みます。ゼノスが祈った場所が聞こえる度に手を挙げてもらいます。場所をホワイトボード(または黒板)に書きます。現代に置き換えて考えるとそれらはどのような場所になるか子供たちが理解できるように、以下の言葉を紙に書いて用意します(例：荒野——迷子に

なったり、ひとりぼっちになったりしたとき；畑——庭、遊び場、公園；会衆——クラス、教会の集会)。子供たちに紙に書いた言葉に当てはまるホワイトボード(または黒板)の言葉と組み合わせてもらいます。

**応用を促す(祈りについて話し合う)**：子供たちを幾つかのグループに分け、ゼノスが話したような場所で祈った経験を分かち合ってもらいます。

### 第3週と第4週：天のお父様はたくさんの方で祈りにこたえてくださいます。

**教義を明確にする(ゲームをする)**：初等協会が始まる前にホワイトボード(または黒板)に「天のお父様はたくさんの方で祈りにこたえてくださいます」と書き、文節ごとに紙片で覆っておきます。一人の子供に紙片を1枚外させ、どんな文章が書いてあるか当ててもらいます。別の子供に同じことをやってもらい、文章全体を当てられるまで続けます。最後に全員で文章を読みます。

**理解を促す(聖文を読む)**：子供たちに、ジョセフ・

スミスはどの教会に入るべきかを知るために祈ったことを話します。ジョセフ・スミス—歴史 1:17を一緒に読み、彼の祈りはどのようにこたえられたかを調べます(天の御父とイエス・キリストが姿を現された)。アルマは息子アルマが真理を学ぶように祈ったことを話します。モーサヤ 27:11を一緒に読み、アルマの祈りがどのようにこたえられたかを調べます(息子アルマに天使が現れた)。ほとんどの祈りは、別の方法で与えられることを子供たちに説明します。祈りがどのようにこたえられるかを示す以下の聖句をそれぞれ別の紙に書いて



おきます—教義と聖約 6:22-23 (平安な気持ちを通して) ; 教義と聖約 8:2 (思いを考えを浮かばせ、心に何かを感じさせてくださる) ; モーサヤ 27:36 (ほかの人の行いを通して) ; 2 ニーファイ 32:3 (聖文を通して)。紙を一つの容器に入れ、一人の子供に1枚取って読んでもらいます。全員でその聖句を開いて読み、そこに書かれた天の御父が祈りにこたえてくださる方法を子供たちに答えてもらいます。

**応用を促す (物語を聞く) :** 4人の人を招いて、祈りがどのようにこたえられるかを示す話を分かち合ってもらいます。話の内容は自分の経験や教会機関誌、聖文などから選んでもらいます。子供たちに、家に帰ったら家族に、祈りがこたえられたときのことを尋ねるように伝えます。



子供たちが毎週学ぶ教義を分かりやすく紹介します。分かち合いの時間の初めに、一緒に声に出して言ってもらおうようにしてもよいでしょう。

## 音楽指導者へ

子供たちが「子供のいのり」(『歌集』6-7)を覚えられるように、以下のことを行ってもよいでしょう。

- 子供たちに、自分が家族から長い間離れていた後でようやく家に帰り、ドアを開けて慰めと愛に満たされている様子を想像してもらいます。祈りは天の御父に対して扉を開けるようなもので、御父はほんとうに扉の向こう側におられ、慰めと愛を与えてくださること、またすべての子供たちの祈りを聞き、こたえたいと思っておられることを説明します。
- 「子供のいのり」の最初の2節を歌うとき、「子供」「いのり」という言葉によく注意して聞くように子供たちに伝えます。その言葉が聞こえたら自分の耳を触ってもらいます。同じようにしながら最後まで一緒に歌ってもらいます。

- 2番を1節ずつ歌い、子供たちを指さす合図で子供たちに後について歌ってもらいます。子供たちを二つのグループに分けて、順番に歌ってもらいます。最初のグループが「いのりなさい、はなしなさい」の部分を読み、次のグループが「おとうさまは、きいています」と読み、残りを全員で立って「天国のように清い子どもたちを愛して」を読みます。

**聖典:** 子供たちにとって福音の真理を聖典から学ぶのは大切です。聖典を手に持ちながら、子供たちに教えます。



# わたしは心と勢力と意思と力を尽くして 神に仕えます

「あなたは心を尽くし、勢力と意思と力を尽くして、主なるあなたの神を愛さなければならない。」  
(教義と聖約 59:5)

この冊子に提示されているアイデアに皆さんのアイデアを盛り込んでください。子供たちに(1)教義を明らかにし、(2)子供たちが教義を理解し、(3)生活に応用できる方法を計画して(たまた)ください。次のように自問してください。「これを学ぶために子供たちは何をすればよいだろうか。子供たちが御霊を感じられるようにわたしに何ができるだろうか。」

**ロールプレイ:** ロールプレイを行ったり、状況を演じたりすることで、子供たちが福音の原則を自分の実際の生活に当てはめるのに役立ちます。また、子供たちが積極的に参加する機会になります。

## 第1週: イエス・キリストは互いに仕え合う方法を教えてくださいました。

**教義を明確にする (絵を見る):** イエス・キリストが人々に仕えている絵を数枚掲示します。例として『視覚資料集』の41、42、46、47、55を使います。それぞれの絵について子供たちに説明してもらいます。どの絵においても、イエスが人々に仕えている様子が描かれていることを話します。ホワイトボード(または黒板)に「イエス・キリストは互いに仕え合う方法を教えてくださいました」と書きます。



**理解を促す (聖文を読み、ロールプレイをする):** マタイ 25:35-36 に書かれている困っている人の状況を、子供たちに順番に演じてもらいます。例として、お腹がすいている、のどが渴いている、近くに知っている人がいない、病気である、などが挙げられます。ほかの子供たちには、それを見てどんなことで困っているかを当ててもらい、どのような方法で仕えることができるかを演じてもらいます。一緒にマタイ 25:35-40 を読み、わたしたちがお互いに奉仕するとき、だれに奉仕していることになるとイエス・キリストが言われたかを子供たちに探してもらいます。

**応用を促す:** 子供たちに紙を1枚ずつ渡して、自分が仕えることのできる人々の名前と、その人々にどんな奉仕ができるかを書いてもらいます。絵で描いてもらってもよいでしょう。その紙を家族に見せ、分かち合うように伝えます。

## 第2週: 預言者と使徒は人に仕える方法を教えてくださいました。

**教義を明確にする:** モーセ、ベニヤミン王、ジョセフ・スミス、トーマス・S・モンソン大管長の絵や写真を掲示します。子供たちに、これらの預言者はほかのすべての預言者や使徒と同じように、人に仕える方法を教えてくださいましたことを話します。

**理解を促す (クイズ):** モーセやベニヤミン王、ジョセフ・スミス、トーマス・S・モンソン大管長がどのように人に仕えたかを示すヒントを用意します。例: モンソン大管長のヒント——「わたしはワードの未亡人を定期的に訪問しました。」「小さいとき、ほかの男の子に自分のお気に入りのおもちゃをあげました。」

「わたしはよく入院している人を見舞います。」また、ヒントを準備するために以下の聖句を参照するとよいでしょう。モーセ——出エジプト 2:16-17; 1 ニーファイ 17:24-29。ベニヤミン王——モーサヤ 2:12-19。ジョセフ・スミス——ジョセフ・スミス-歴史 1:62, 67; 教義と聖約 135:3。トーマス・S・モンソン——『聖徒の道』1995年12月号, 2-4; 『リアホナ』2006年11月号, 56-59

4人の子供たちを選んで上記の預言者になってもらい、それぞれに準備したヒントの一つを読んでもらいます。ほかの子供たちには、どの預言者が分かったら手を挙げてもらいます。それからその預言者の絵や写真を見つけてもらいます。ほかの預言者についても同じように繰り返します。

**応用を促す (総大会を聞く):** 子供たちに翌月の総大会を見たり聞いたりするように伝えます。その中で、人々に仕える方法についての話を探すように励まします。学んだことを分かち合う機会を与えます。

ローブや帽子などの簡単な衣装を着けると、劇がもっとおもしろくなります。劇を演じることで子供たちは福音の原則や聖文の内容をより良く理解できるようになります。



第3週と第4週：わたしがほかの人に仕えるとき、神様に仕えることになります。

**教義を明確にする** (聖句を暗記する)：子供たちがモーサヤ2：17の最後の部分を暗記できるよう、ホワイトボード(または黒板)に書きます。「あなたがた



が同胞のために務めるのは、とりもなおさず、あなたがたの神のために務めるのである。」子供たちにこの文章を2、3回繰り返して言ってもらいます。一人の子供にホワイトボード(または黒板)に書かれた文の単語を一つか二つ消してもらい、また全員で文章を言ってもらいます。それを繰り返し、全部の文章が消えるまで続けます。

**理解を促す** (事例について話し合う)：準備のために、2010年4月の総大会でワークドルフ管長が話した「あなたはわたしの手である」(『リアホナ』2010年5月号、68-75)を祈りの気持ちで研究しておきます。子供たちに、周囲の人に仕えるとき、どのように神に仕えていることになるかを尋ねます(主がここにおられたらされていただろうことをしていることになる)。奉仕についての話や個人的な経験を分かち合い、奉仕した人、奉仕を受けた人の両方がどのように祝福されたかを説明します。『リアホナ』には奉仕の物語が書かれています。子供たちに人々に仕える方法を示すために、幾つかの事例を準備します(『教師、召し』161

-162参照)。例：「アニーは下校中につまずいて転んでしまい、本や紙が地面に散らばってしまいました。デビッドは立ち止まって彼女を起こしてあげ、本を拾ってあげました。」「メアリーの近所の人が、赤ちゃんが泣いていたために、食料品を家に運び入れるのが大変そうでした。メアリーは荷物を運ぶのを手伝ってあげました。」子供たちにこれらの事例を演じてもらい、奉仕を受けた人はだれか言ってもらいます(奉仕を受けた人と神様)。

**理解と応用を促す** (組み合わせゲーム)：親や兄弟、祖父母、友人、近所の人など、子供たちが仕えることができる人々の絵や写真を見つけるか、絵を描きます。それらをコピーして、子供たちと神経衰弱ゲームをします(『教師、召し』168)。一組絵を合わせられたら、その子供にその絵の人に奉仕できる方法の一つ挙げてもらいます。子供たちのアイデアをホワイトボード(または黒板)に書いていきます。奉仕する方法のアイデアが『初等協会4』に載っています。

**教義を純粋に保つ**：福音の真理だけを教え、ほかのことは教えないようにします。常に教会で制作され、承認されたレッスンの教材を用います(『教師、召し』52-53)。



ゲームはレッスンに多様性を加え、福音の原則を楽しく教えてくれ、理解を深めながら子供同士が交わることを可能にします。

# わたしは神のすべての子供たちと福音を分かち合います

「そのように、あなたがたの光を人々の前に輝かし、そして、人々があなたがたのよいおこないを見て、天にいますあなたがたの父をあがめるようにしなさい。」(マタイ 5:16)

この冊子に提示されているアイデアに皆さんのアイデアを盛り込んでください。子供たちに(1)教義を明らかにし、(2)子供たちが教義を理解し、(3)生活に応用できる方法を計画してください。次のように自問してください。「これを学ぶために子供たちは何をすればよいだろうか。子供たちが御霊を感じられるようにわたしに何ができるだろうか。」

## 第1週：福音に従って生活すると、今から宣教師になれます。

**復習：**総大会を見たり聞いたりしたときに学んだことを分かち合う機会を子供たちに与えるよう留意してください(9月第2週参照)。

**教義を明確にし、理解を促す(物語を聞く)：**宣教師の写真を掲示します。子供たちに宣教師はどんなことをするか尋ねます。以下の物語あるいは『リアホナ』に掲載されている物語を分かち合います。「ある日、二人の宣教師がある家のドアをノックしました。江本さんという女性がドアを開けました。宣教師たちは彼女に、自分たちは末日聖徒イエス・キリスト教会の宣教師であると話しました。江本さんは宣教師を招き入れると、教会についてもっと知りたいと言いました。……江本さんは、以前末日聖徒の家族の隣に住んでいたことを宣教師に話してくれました。その家族の子供

たちはいつもとても礼儀正しくて親切だったと言いました。彼らはだれとでも同じように遊び、友達のを大切に扱いました。その子供たちにそれほど素晴らしい隣人であるように教えた教会について知りたいと言いました。」(『初等協会2』44参照)「江本さんの隣に住んでいた子供たちは、どのような点で宣教師だったでしょうか」と尋ねます。わたしたちが福音に従って生活するときにはいつでも、宣教師になれることを説明します。子供たちに、「福音に従って生活すると、今から宣教師になれます」と一緒に言ってもらいます。そのとき「今から」という言葉を強調します。

## 第2週：福音に従って生活すると、今から宣教師になれます。

**理解を促す(歌を歌い、福音の標準について話し合う)：**13枚の紙を用意し、それぞれに「わたしの福音の標準」の一つを書いてカードを作ります(『分かち合いの時間——いましめをまもる』『フレンド』『リアホナ』2006年6月号、F4)。数枚のカードを子供たちに

渡し、「宣教師になりたいな」(『歌集』90)を歌いながら、そのカードを次から次へと別の人に渡してもらいます。歌が終わったら、カードを持っている子供に、そこに書かれている標準を読み上げてもらい、その標準に従って生活すると、どのように宣教師になる準備ができるかを話してもらいます。カードを替えて、何回か繰り返します。

**応用を促す(目標を立てる)：**子供たち一人一人に福音の標準の一つを選んでもらい、今週それに従ってもっと良い生活を送れるようにしてもらいます。紙を配り、自分が選んだ標準を書いてもらったり、あるいはそれを表す絵を描いてもらったりして、毎日それを見て思い出せるようにします。次の日曜日に、1週間努力してみてもう良かったかを初等協会で報告してもらいます。



教義に関する歌を歌うことにより、子供たちが教義を学び、覚えるのに役立ちます。また歌の内容に関連した視覚教材を見たり、活動を行ったりすることにより、子供たちはさらによく学びます。

### 第3週：わたしは家族や友達と福音を分かち合うことができます。

**教義を明確にする (物語を聞く) :** 初等協会の前に、2000年10月の総大会でロバート・C・オークス長老が話した説教「福音を分かち合う」を読んでおきます(『リアホナ』2001年1月号、95-97)。子供たちにオレンジジュースの話をして、福音はオレンジジュースよりももっとすばらしい味なので、ほかの人と分かち合わなければならないことを説明します。子供たちに「わたしは家族や友達と福音を分かち合うことができます」と言ってもらいます。

**理解を促す (ゲストを招いて話を聞く) :** 宣教師や帰還宣教師を招いて、子供たちがほかの人々と福音を分かち合える方法について話してもらいます(例：良い

模範を示す、初等協会に友達を誘う、証を分かち合う)。また、子供たちが福音を分かち合う努力をすることで、どのように天の御父や宣教師を助けることになるかを話してもらいます。

**応用を促す (物語を聞き、考えを分かち合う) :** 子供たちに今から宣教師になることを思い出させます。あなたや、だれか知っている人が福音を分かち合った経験について話します。子供たちに順番に立ってもらいながら、「わたしは」・「福音を」・「分かち合えます」を順番に一人1語ずつ言ってもらいます。「福音を」と言った子供に、家族や友達と福音を分かち合える方法を考えてもらいます。次の3人で同じことを繰り返します。

**ヒント:** 週によっては指示された内容が多くて1回の分かち合いの時間にはすべからぬ場合もあるでしょう。初等協会の子供たちにとって最も適していると思われる活動を、祈りながら選択してください。

### 第4週：福音を分かち合うとき、わたしの証は強められます。

**教義を明確にする (実物を用いたレッスンをみる) :** 透明な容器に水をいっぱいに入れます。福音を分かち合う度に、わたしたちの証は強められることを説明します。容器にインクを1滴たらします。福音を分かち合う方法の例を伝える度に、同じ色のインクを1滴ずつ加えていきます。インクを1滴加える度に色がだんだん濃くなるのと同じように、わたしたちが福音を分かち合う度にわたしたちの証も強くなっていくことを伝えます。



実物を用いたレッスンをするので、子供たちの興味を引き、注意を福音の原則に向けさせることができます。

**理解を促す (証について話し合う) :** 以下の物を袋に入れておきます——イエス・キリストの絵、ジョセフ・スミスの絵、現在の預言者、モルモン書、「真実の教会」と書いた紙。「あかし」とホワイトボード(または黒



板)に書き、子供たちに証とは何かを尋ねます。子供たちに答えてもらい、それについて話し合います。次の物語を話します。「あるところに小さな女の子がいました。女の子は自分の気持ちがよく分からなかったの、証をするのは怖いと思っていました。でも、それが大切であることは分かっていたので、ある日女の子は勇気を出して、自分が信じている5つのことについて証しました。証を終えたとき、良い気持ちを感じ、証が強くなったのが分かりました。」女の子が証した5つのことを子供たちに知ってもらうために、袋の中に入れておいた物一つずつ出して見せます。一つずつ話し合い、部屋の前の方に並べていきます。

**応用を促す (模範を分かち合う) :** 福音を分かち合える方法を子供たち一人一人に話してもらいます。子供が方法を話してくれる度に、容器の水の中にインクを1滴垂らし、福音を分かち合うことで証が強められることを示します(人数が多いときはグループごとに行い、全員が自分の考えを分かち合う機会を持てるようにします)。

**答えを引き出す:** 子供たちが教義を応用する方法を分かち合うとき、福音のメッセージを心に焼き付け、御霊を招くことができます。教義を教えた後は、子供たちにそれを生活の中でどのように応用できるかを分かち合う機会を与えるようにしてください。

# わたしたちはすべてのことについて 神様に感謝しなければなりません

「毎日主なる自分たちの神に感謝することを指示した。」(モーサヤ 18:23)

この冊子に提示されているアイデアに皆さんのアイデアを盛り込んでください。子供たちに(1)教義を明らかにし、(2)子供たちが教義を理解し、(3)生活に応用できる方法を計画してください。次のように自問してください。「これを学ぶために子供たちは何をすればよいだろうか。子供たちが御霊おんたまを感じられるようにわたしに何ができるだろうか。」

**初等協会の歌**を歌うことによって、子供たちは教義を覚えやすくなります。あなたが教えることを強化してくれるような歌を歌うとよいでしょう。今月の歌として以下が考えられます——「世界中の子供たち」(『歌集』4-5)、「感謝のいのり」(『歌集』18)、「美しくかがやくこの世界」(『歌集』122)、「天のお父様の愛」(『歌集』16-17)、「感謝しますお父様」(『歌集』15)。

## 第1週：わたしは自分の体に感謝します。わたしの体は神の宮であることを知っています。

**教義を明確にする** (絵を見ながら聖句を読む)：一人の子供の写真と神殿の写真を掲示しておきます。1コリント3:16を全員で声に出して読みます。「この聖句からわたしたちの体についてどんなことが分かりますか」と質問する。ホワイトボード(または黒板)に、「わたしの体は神の宮です」と書きます。

**理解を促す** (聖句を読む)：自分の体に感謝していることを天の御父に示す方法について話し合います。例：体を大切にし、清潔に保ちます。預言者は、体を大切にするために、たばこを吸ったり、アルコールや違法

な薬物を使ったり、入れ墨を入れたりしないように勧告していることを説明します。子供たちを幾つかのグループに分け、各グループに以下の聖句の一つあるいは幾つかを読んで話し合ってもらいます——教義と聖約 88:124; 89:7, 8, 9, 10-11, 16-17。各グループに、体を大切にする方法について聖句から学んだことを分かち合ってもらいます。

**応用を促す** (目標を立てる)：子供たちに、体を大切にするためにこれから1週間することを書いたり、絵に描いたりしてもらいます。

## 第2週：わたしは目に見える祝福に感謝します。

**教義を明確にする**：ホワイトボード(または黒板)に「わたしは目に見える祝福に感謝します」と書きます。子供たちにその文章を言ってもらいます。ここでは見たり、触ったり、聞いたり、味わったり、においをかいだりできる祝福について学ぶことを説明します。

**理解を促す** (クイズ)：目に見える祝福を表す実物や写真を展示します(例：体、家、食べ物、水、衣服、

健康、太陽、月、星、地球、動物、植物、家族、友達、おもちゃ、本、学校)。その中の一つを表すヒントを言い、子供たちにどの祝福について言っているかを当ててもらいます。年長の子供には、祝福を別々の紙に書いて入れ物に入れておき、一人の子供に1枚選ばせてその祝福についてヒントを出してもらいます。ほかの子供たちがその答えを当てたら、ホワイトボード(または黒板)に書き、別の子供になぜこの祝福に感謝しているかを話してもらいます。

**応用を促す** (考えを分かち合う)：子供たちに、話し合った祝福の一つに対して感謝していることを示すためにどんなことができるかを尋ねます。数人の子供たちに自分の考えを分かち合ってもらいます。



様々な教授法を用いて教えると、子供たちはより効果的に学びます。子供たち全員が参加できるような活動や教授法を選んでください。



### 第3週：わたしは霊的な祝福に感謝します。

**教義を明確にし、理解を促す (聖句を読む)：**救い主の写真とモロナイ 10：8 - 17の聖句を中に入れた贈り物を準備しておきます。ホワイトボード(または黒板)に「わたしは霊的な祝福に感謝します」と書きます。主がわたしたちに与えてくださる霊的な祝福はたくさんあること、主は聖霊の力によってこれらの祝福を与えてくださることを説明します。一人の子供に贈り物を開けて、中身を全員に見せてもらいます。子供たちに聖句を読んでもらい、主が与えてくださる霊的な祝福を見つけてもらいます。それをホワイトボード(または黒板)に書きます。その中の幾つかの祝福について話し合い、それらを使ってほかの人を助けなければならないことを説明します。



### 第4週：わたしたちは天のお父様にすべての祝福について感謝しなければなりません。

**教義を明確にする：**子供たちに、あなたがだれから贈られた物の一つか二つ見せます。それがあなたにとって大切であることや、それをもらったとき相手に「ありがとう」と伝えたことを説明します。子供たちに、受けた贈り物に対して感謝を表すのにほかの方法があるかを尋ねます。子供たちに、わたしたちはすべての祝福に対してだれに感謝しなければならないか尋ねます。すべての祝福に対して天の御父に感謝しなければならない理由について話し合います。

**理解を促す (リストを作る)：**5つの小さな袋を準備し、それぞれに紙1枚、ペン1本、また次の中から一

つを選んで入れておきます——教会の集会所の写真、洋服の生地、聖典、家族の写真、救い主の写真。子供たちを5つのグループに分けて、各グループに用意した袋一つを渡します。各グループに袋の中身を見てもらい、中に入っている物に対する感謝を表す方法を紙に書いてもらいます。それからまた袋にすべてを戻してもらい、別のグループに渡してもらいます。各グループにすべての袋が渡るようにして、最後にリストに書かれていることを発表してもらいます。

**応用を促す (考えを分かち合う)：**数人の子供たちにこの活動から学んだこととそれを生活の中でどのように応用していくかを発表してもらいます。

**ホワイトボード(または黒板)：**ホワイトボード(または黒板)は、最も単純で、簡単に使いやすい教材の一つです。それを利用して書き出すことで、子供たちがどのような答えや考えを持っているか分かることができます。



子供たちを小さなグループに分けて、その中で話し合ってもらうと、もっと多くの子供たちが参加できます。教師は参加を促しながらも敬虔さを維持できるように助けることができます。

# わたしはイエス・キリストが 再び来られると知っています

「わたしは知る、わたしをあがなう者は生きておられる、後の日に彼は必ず地の上に立たれる。」  
(ヨブ 19:25)

この冊子に提示されているアイデアに皆さんのアイデアを盛り込んでください。子供たちに(1)教義を明らかにし、(2)子供たちが教義を理解し、(3)生活に応用できる方法を計画してください。次のように自問してください。「これを学ぶために子供たちは何をすればよいだろうか。子供たちが御霊を感じられるようにわたしに何ができるだろうか。」

## 第1週：預言者はイエス・キリストが地上に来られることを預言しました。

**理解を促す(聖句を読む)：**イザヤ、ニーファイ、ベニヤミン王、アビナダイ、アルマ、レーマン人サムエルの絵を『視覚資料集』や『初等協会4』の視覚資料集から選んで掲示します。子供たちを幾つかのグループに分け、各グループに以下の聖句の一つを割り当て、読んでもらいます——(1)イザヤ7:14;9:6;(2)1ニーファイ11:14-15, 20-21;(3)モーサヤ3:5-8;(4)モーサヤ15:1;(5)アルマ7:10-12;(6)ヒラマン14:1-3。子供たちにどの預言者がだれに預言しているかを見つけてもらいます。各グルー

プに、答えが分かったらほかの子供たちにその預言者の絵を見せ、何という預言者で何と語ったかを話してもらいます(年少の子供たちの場合、6人の子供たちに簡単な衣装を着けて6人の預言者にふんしてもらってもよいでしょう)。これらの預言者はイエス・キリストが地上に来られると預言したことを説明します。「サムエルのよげん」(『聖徒の道』1992年12月号、「せいとのみち」7)を歌います。預言者が預言したとおり、イエス・キリストは地上に来られたことを証します。

## 第2週：イエス・キリストは再び地上に来られます。

**教義を明確にする：**再臨の絵を掲示します(『視覚資料集』66)。子供たちに、イエス・キリストはまず赤ちゃんとしてベツレヘムにお生まれになったことを思い出させます。聖典から、キリストは再び地上に来られることが分かることを説明します。

**理解を促す(組み合わせゲームをする)：**以下の参照聖句の一つ書いた紙を2枚ずつ作ります——マタイ16:27;マタイ24:30, 36, 42;使徒1:9-11;教

義と聖約36:8;教義と聖約45:57-59;教義と聖約88:95-98。すべての紙を裏返しにしてホワイトボード(または黒板)にはります。子供たちに順番に2枚を選んでもらい、書かれていることを確認するためにひっくり返してもらいます。同じでない場合はまた裏返します。同じものがあつたら、表の聖句を見せたままにして、子供たちにその聖句を開いて、キリストの再臨についてどんなことが書いてあるか見てもらいます。すべての組み合わせが終わるまで繰り返します。

## 第3週：わたしは天のお父様とイエス・キリストと再び住めるように準備します。

**教義を明確にする(ジェスチャーゲームをする)：**2, 3人の子供たちに、ベッドに行くときや、教会に行くとき、あるいは長い旅行に行くときの準備をしている様子をジェスチャーで演じてもらいます。ほかの子供たちには、何をしているところか当ててもらいます。その準備をしないとどうなるか、子供たちと話し合います。わたしたちが備えるべき大切なことの一つは、天の御父とイエス・キリストと再び住むことである、と説明します。

**注意を引く活動(ジェスチャーで表現させる、など)は、子供たちに興味を持ってもらい、レッスンのテーマに子供たちの注意を集中させるのに役立ちます。参加していない生徒も、ほかの子供たちを見ているうちにレッスンに引き込まれるようになります。**



**活動を工夫する：**入手可能な教材や資料に合わせて、また初等協会の子供たちに合わせて活動を工夫します。例えば、第3週の応用のための活動では、子供たちに紙に考えを書いてもらう代わりに、準備のために自分にできることについて手を挙げてもらうこともできます。

**理解を促す (歌を歌う) :** 「神の子です」(『歌集』2-3)の3番を歌います。その間子供たちに、天の御父と再び住むためにわたしたちに準備できることが何であるか聞き取るように伝えます。子供たちを立たせ、「みこころおこない」という箇所をもう一度歌ってもらいます。初等協会の歌の中には、天の御父やイエス・キリストと再び住む備えをするためにどんなことができるかを教えてくれるものもあることを説明します(例: 「主の計画に従う」(『歌集』86-87), 「いましめを守る人」(『歌集』68-69), 「自分から始めよう」(『歌集』83), 「バプテスマを受ける時」(『聖徒の道』「こどものページ」1997年9月号, 5))。伴奏者に上記の歌の一つの出だしを弾いてもらい、子供たちに何の歌か

を当ててもらいます。子供たちにその歌を歌ってもらい、天の御父とともに住むために備える方法について歌っている箇所になったら立ち上がるように伝えます。ほかの歌についても同様に行います。

**応用を促す (絵を描く) :** 子供たちに、天の御父とイエス・キリストと再び住むためにどのような準備ができるか考えてもらいます。子供たちそれぞれに1枚ずつ紙を配り、自分の手の形をなぞって手の輪郭を描いてもらいます。その絵のそれぞれの指に、準備するためにできることを一つ書いてもらいます。その中の一つを選んで今週努力してみるよう伝えます。次の日曜日に1週間どんなことをやったかを聞くので、分かち合ってほしいと伝えます。

**書く:** 福音の原則を書くことで、子供たちは覚えやすくなります。



#### 第4週: わたしは神の子であるという証があります。

**教義を明確にする (クイズ) :** ホワイトボード(または黒板)に、「わたしには\_\_\_\_\_があります」と書きます。子供たちに腕を組みながら次のヒントを聞いてもらい、空欄に当てはまる言葉が分かったら立ち上がるように伝えます。

- これがあると、良い気持ち、幸せな気持ち、温かい気持ちになります。
- わたしたちはこれを聖霊から頂きます。
- これがあると、正しいを選びたいと思うようになります。
- 初等協会や家庭の夕べ、断食証会で、これをほかの人に分かち合うことができます。

「このすばらしいものは何ですか」と尋ねます。空欄に「あかし」という言葉を書き入れ、子供たちに、自分が神の子であるという証を持つことを伝えます。

**理解を促す (歌を歌う) :** 子供たちに「神の子です」を歌ってもらい、歌うときどのような気持ちを感じるかを尋ねます(『歌集』2-3)。数人の子供たちに感じたことを話してもらいます。心に感じた良い気持ちは聖霊から来ていること、聖霊は子供たちがほんとうに神の子であると伝えてくださっていることを説明します。これが真実であることは証を得るということであると説明します。わたしたちが神の子であると知る方法はたくさんあることを説明します。「皆さんは自分が神の子であるとどのように分かりますか」と尋ねます。

**応用を促す (証を聞く) :** 子供たちに以下のことを尋ねます。「自分たちが神の子であるという証を持つのはなぜ大切ですか。証があることは正しい選択をするのにどのように役立ちますか。」あなたの証を分かち合い、数人の子供たちと大人に、自分たちが皆神の子であるという証を分かち合ってもらいます。

**証する:** 促しを感じたときは、教えている教義について証を述べます。聖霊はあなたの語る真理を子供たち一人一人の胸に証してください。証を述べることで、子供たちは御霊を感じ、証を強めようという気持ちになります。



# 初等協会で音楽を用いる方法

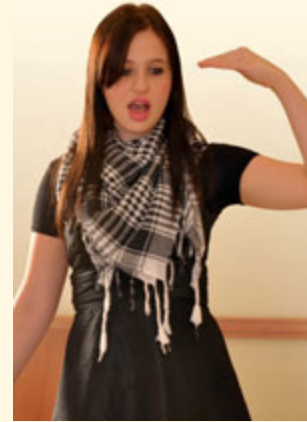
初等協会の音楽の目的は、子供たちにイエス・キリストの福音を教えることです。初等協会の歌を歌うことで、福音をもっと楽しく学ぶことができ、御霊を招き、学ぶうえで最適な敬虔な雰囲気をつくり出すことができます（『手引き 第2部 教会の管理運営』（2010年）11.2.4 参照）。

歌を教える準備をするとき、次のように自問してください——わたしはどのように子供たちの注意を引きつけ、引き留めておくことができるだろうか。子供たちが歌に含まれている福音のメッセージを理解できるようにするには、どのような質問をしたらよいだろうか。この歌を教えるためにどのような教授法を用いればよいだろうか。以下のような教授法を試してみてもよいでしょう。この概要で提案されている歌を教える際、そこに示されている例が役立つでしょう。そのほかの提案については、LDS.orgの“Serving in the Church”（教会での奉仕）にある“Primary”（初等協会）のページ（英語）や、2010年、2011年、2012年の『概要』の「初等協会で音楽を活用する方法」を参照してください。

**活動を工夫する：**ここで示されている教えるためのアイデアの中には、年少の子供たちに最も適したものもあるでしょう。子供たちの様々な年齢に応じて教授方法を変え、全員が学習や歌に取り組めるようにするとよいでしょう。

## 歌の中で福音の原則を強調する。

「家族は永遠に」（『歌集』98）を教える際、次のようなアイデアを取り入れるとよいでしょう。子供たちに歌の1節目を歌って聞かせ、だれの望みについて歌っているか分かったら静かに立ち上がるように伝えます（わたしの家族）。「すてきな」と「……ののぞみ」の部分は音程は違うけれども、メロディーの動きは同じであることを伝え、そこに注意して一緒に歌います。次の部分では、どのくらいの間結ばれたいと歌っているかよく聞くように伝えます。「いつまでも」という部分を強調して2節目を歌い、次に子供たちに一緒に歌ってもらいます。最初から通して歌います。次に、その願いがかなえられるように、主はどのようなことをしてくださるかをよく聞いてほしいと伝え、最後まで歌います（家族を結ぶ道を教えてくださる）。家族はどこで結ばれるか尋ねます（神殿）。天の御父は子供たちに、神殿で結婚して永遠の家族を築いてほしいと願っておられることを伝えます。残りの部分を1節ずつ歌い、子供たちに



子供たちが歌のメロディーを覚えられるように、歌を指導する際、「手のひらを水平にし、歌に合わせてピッチが上がる場合は手を上に挙げ、落ちる場合は下に降ろ」します（『教師、召し』173）。

後に続いて歌ってもらいます。最初から全員で歌います。

## 視覚教材を用いて、子供たちが歌詞を学び、覚えられるようにしましょう。

**練習する：**効果的に歌を教えるためには、教える者自身が歌を知らなければなりません。教えるときには子供たちを見て教えられるように、家でよく練習しておきましょう。

もし主がわたしのそばにいたら	しょうじきでしんせつに	主のいましめをかたくまもるかな	けいけんになるかな	主のもはんを見て	ただしく生きるかな	わたしたちのちかくに主がいたら

視覚資料を手にするには、ここをクリックしてください。

「主がそばにいたら」（この概要の28ページ）を教えるとき、次のアイデアを用いてもよいでしょう。

- 歌詞を節ごとに紙に書き、その内容に合った絵を見つけてます。見つけた絵を部屋の片側に置き、歌詞を

書いた紙をもう一方に置きます。もし自分の隣に救い主がおられたら、自分はどのように行動すると思うかを話し合ってもらいます。歌を歌い、絵と歌詞カードを合わせるように言います。

- あなたが絵を指さすのに合わせて、子供たちと一緒に歌ってもらいます。
- 各クラスに歌の1節を担当して、立って歌ってもらいます。そして、1節ずつ歌って全員に順番が回るようにします。

**証する：**初等協会の歌に含まれる福音の真理について、子供たちに簡単に証します。歌うことは、証をし、御霊を感じる一つの方法であることを子供たちが理解できるよう助けます。

子供たちが参加でき、歌を覚えられるように、適切な動作を取り入れます。

「天のお父様の愛」(『歌集』16-17)を教える際、以下のアイデアを使ってもよいでしょう。子供たちにこれまで家族に対してどのように愛を示してきたか尋ねます。また、天の御父が自分たちにどのように愛を示してくださったか尋ねます。天の御父は、子供たちを愛しておられるのでこの美しい世界をつくってくださったことを説明します。この歌を1節ずつ歌い、子供たちに後に続いて一緒に歌ってもらいます。その際、歌詞に合わせて鳥が歌っている様子や、空を見上げる動作、雨

やおおをぬらす様子や、風が通り過ぎる様子などを体で表現してもらいます。2番の歌詞については、蝶のように羽をはためかせたり、目を指さしたり、耳に手を当てて聞いている動作をしたり、両手を胸に当てたりします。「わたしのいのち」の部分では自分を抱きしめるような動作をし、最後の「お父様の愛によりつくられたとわたしは分かります」の部分では、もう一度両手を胸に当てます。



**繰り返す**ことで、子供たちは新しい歌を覚えやすくなります。「ささやくように」、「ハミングで」、「手拍子を取りながら」、「テンポを変えて」、「座ったり立ったりしながら」、など様々な方法で繰り返し歌ってください。

# しゅ 主がそばにいたら

思いを込めて ♩ = 90-100

詞・曲 サリー・デフォード

1. もし しゅ が わ た し の そ ば に い た な ら しゅ の  
 2. もし も しゅ が ほ く の そ ば に い た な ら しゅ の  
 3. わ た し の そ ば に は い つ も しゅ が い る た と

い ま し め を か た く ま も る か な しゅ の も は ん を  
 じ き で し ん せ つ に は な す か な ふ く い ん つ た  
 え そ の す が た は み え な く て しゅ は わ た し の

み て た だ し く い き る か な わ た し の ち か く に  
 え て け い け ん に な る か な ー ほ く の と な り に  
 こ と み ま も っ て く だ さ る しゅ が の ぞ む よ う な

しゅ が い た ら ひ と に な ろ う

Red. \_\_\_\_\_ \*

© 1991 Sally DeFord 版權所有

家庭あるいは教会における一時的または非営利目的の使用にかぎり、複製することを許可します。  
 この通知は複写したすべての版に掲載してください。

# 障がいのある子供に教える

救い主は次にお教えになりました。「あなたの子孫は皆、主によって教えを受け、あなたの子孫の平安は深い。」(3 ニーファイ 22:13)

初等協会の指導者には、すべての子供たちにイエス・キリストの福音を教えるという重要な責任があります。その中には障がいのある子供たちも含まれます。初等協会は、すべての子供たちが歓迎され、愛され、養い育てられ、参加できる場所でなければなりません。このような雰囲気の中で、すべての子供たちは天の御父とイエス・キリストの愛を理解し、聖霊の影響力を認識し、感じるようになります。

一人一人の子供は神にとって貴い存在であり、愛と尊敬と助けを必要としています。

障がいのある初等協会の子供たちの必要を満たすために取り組むに際しては、ほかの人々とよく相談してください。

1. **両親と話す。** 普通、子供のことを最もよく知っているのは両親です。子供の必要にどのようにこたえればよいか、集中力がどのくらい持続するか、どのような学び方が好きかを教えてもらうことができます。例えば、音楽、物語、絵・写真によく反応する子供もいれば、聖典や動作に興味を示す子供もいます。子供たち一人一人が最もよく学べる方法を取り入れられるように、様々な教授法を用いるようにします。

2. **ほかの初等協会の指導者や教師と相談する。** 子供たち一人一人がイエス・キリストの福音を学び、愛されていると感じられる方法を見つけられるように、ともに祈り、協力します。

3. **ワード評議会で相談する。** 特別な必要のある子供たちを助ける方法について、神権指導者やほかの補助組織指導者に良いアイデアがあるかもしれません。あるワードでは、大祭司グループが「初等協会のおじいちゃん」となり、毎週、自閉症を持つ男の子の隣に座ってくれました。(理想的には、毎週同じ人であることが望ましいでしょう。) そのおかげで男の子はレッスンに集中でき、愛されていると感じることができました。

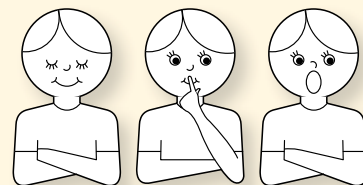
M・ラッセル・バラード長老は次のように教えました。「貴い子供を託されている人が神聖で高貴な管理人の職を授けられているのは明らかです。なぜなら、その人々は今の時代の子供たちを、愛と信仰の炎と彼



らの本質への理解をもって包み込むよう、神より任じられているからです。」(「汝らの子供たちを見よ」『聖徒の道』1994年10月号, 40)

さらに詳しい情報を得る

には: 特別な必要のある子供たちを助ける方法についてさらに詳しい情報を得るには『教師、召し』38-39, および [lds.org/disability?lang=jpn](https://lds.org/disability?lang=jpn) (日本語) にアクセスしてください。



障がいのある子供たちの中には、目で見える合図によく反応する子供たちもいます。祈り、静かにする時間、歌の時間などを知らせるために、ここで紹介されている合図を使ってください。

合図の絵を入手するには、ここをクリックしてください。

レッスンを変更する: 障

がいのある子供たちのために、分かち合いの時間を変更する必要があるかもしれません。そのための幾つかの例については [sharingtime.lds.org](https://lds.org) を参照してください。



末日聖徒  
イエス・キリスト  
教会

発行：末日聖徒イエス・キリスト教会

© 2012 Intellectual Reserve, Inc. 著作権所有 印刷：日本 英語版承認：2011年10月、翻訳承認：2011年10月。原題：2013 Outline for Sharing Time: I Am a Child of God Japanese 08994 300

写真クレジット：2ページ：惑星の写真 NASA/JPLの厚意により掲載。4ページ：地球の写真 © Corbis。15ページ：雲の写真 © Getty Images

JAPANESE

